

## Ⅲ 野菜・いも類

### 1 野菜・いも類病害虫

#### 野菜・いも類病害虫重点防除指導方針

本県農業の活性化および農業所得の向上を図るためには、これまで以上に野菜振興への取り組みが重要であり、収量・品質の高位安定化が必要である。

防除の指導に当たっては、それぞれの病害虫の生態等を熟知して耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向を的確に把握して、環境に配慮しながら、薬剤の性質を生かした適正な防除を実施する。

#### 1 耕種的防除の推進

- ・排水対策を徹底するとともに、有機物の施用や深耕等による土づくりを行う。
- ・抵抗性品種・台木や無病苗を利用する。
- ・作型に応じた品種を使う。
- ・輪作や整枝・剪定・ハウスの換気など栽培環境の改善を行う。
- ・近紫外線カットフィルムや防虫ネット等を利用する。
- ・被害残渣の処理等、圃場衛生を心掛け、圃場の病原菌・害虫の密度を下げる。
- ・太陽熱利用による土壤消毒法など環境にやさしい手法を推進し、土壤伝染性病害虫の防除を徹底する。

#### 2 農薬による防除技術

- ・薬剤防除は、予防および発生初期防除を基本とする。
- ・薬剤の効果を最大限引き出すため、薬剤がかかりやすいよう整枝、剪定を行う。
- ・耐性菌、抵抗性害虫の発生しやすい病害虫は、同一系統薬剤の連用による効果の低下を防ぐため、他系統の薬剤とのローテーションを図る。
- ・集団産地の防除組織の育成強化を図り、安全かつ効率的な防除を推進する。

#### 3 天敵等による防除技術

- ・天敵、生物農薬、フェロモン等の有効活用を図る。

## (1) トマト

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
うどんこ病	インプレッションクリア	パチルスアミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類	
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	トマト	
	クロスアウトフロアブル	ピリオフェノール水和剤	50		3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	ジューファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)	
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	ネクスターフロアブル	イソピラザラム水和剤	7		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	ハーモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類	
	園芸ボルドー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	トマト	
疫病	Zボルドー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	トマト	
	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト	
	ザンパロDMフロアブル	アムトクワジノン・ジメトモル水和剤	40,45		1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト	
かいよう病	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト	
菌核病	カンタストライフロアブル	ボスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト	
	スクレアフロアブル	マンデストロビン水和剤	11		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
すすかび病	シグナムWDG	ピラクrostロビン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト	
	園芸ボルドー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	トマト	
苗立枯病	オーソサイト水和剤80	キャブタン水和剤	M4		800倍	2 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	トマト	
						種子重量の0.2～0.4%	は種前	種子粉衣	1回	トマト	
苗立枯病(リゾクトニア菌)	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	3 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	土壌灌注	2回以内	トマト	
	バシタック水和剤75	メブロン水和剤	7		750～1500倍	3 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	トマト	
						種子重量の0.4%	は種前	種子粉衣	1回	トマト	
灰色かび病	アフェットフロアブル	ベンチオピラド水和剤	7		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	インプレッションクリア	パチルスアミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類	
	カンタストライフロアブル	ボスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト	
	シグナムWDG	ピラクrostロビン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	スミレックス水和剤	プロシロジン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	セイバーフロアブル20	フルジホキノール水和剤	12		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	バレード20フロアブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	ピクシオDF	フェンピラザミン水和剤	17		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト	
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリハソカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト	
	ボトキラー水和剤	パチルスズパチリス水和剤	BM2		1000倍	150～300 $\mu$ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類	
						300g/10a	6～10 $\mu$ g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
						7.5～15g/10a/日	発病前～発病初期	ダクト内投入	-	トマト	
	ボリキシンAL水和剤	ボリキシン水和剤	"[-](I*)		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	ロワール水和剤	イロシオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
					200g/10a	5 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	トマト	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
葉かび病	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ドゥーシヤスフロアブル	シアゾファミド・TPN水和剤	21,M5		1000倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ニマイバール水和剤	ジエトフェンカルブ・ベニミル水和剤	1,10		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ネクスターフロアブル	イピラジラム水和剤	7		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	バレード20フロアブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリハソカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	園芸ボルトー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	トマト
斑点細菌病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
斑点病	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
輪紋病	Zボルトー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	トマト
	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
アザミカマ類	スピノース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
アブラムシ類	アドマイア水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アベル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリアール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	オルラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	チェス顆粒水和剤	ピメトジソン水和剤	9B		5000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ベリマークSC	シアントラニリアール水和剤	28		400株当たり25mL	400株当たり10～20 $\mu$ g(1株当たり25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	材カガ	アファーム乳剤	エマメクシン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内
エスマルクDF		BT水和剤	11A		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
カスケード乳剤		フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
スピノース顆粒水和剤		スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
マッチ乳剤		ルフェスロン乳剤	15		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
マトリックフロアブル		クロマフェノジド水和剤	18		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
オシツコナジラミ		アディオ乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内
	オルラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
オシツコナジラミ幼虫	アプロート水和剤	アプロフェジソン水和剤	16		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
コナジラミ類	アグリメック※	アバメクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	アドマイヤ-水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アネキ乳剤※	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	アベル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリアロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	アルパリン顆粒水溶剤※	ジノテフラン水溶剤	4A		100倍		セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{\bar{e}}$ - $\bar{\bar{h}}$ - $\bar{\bar{b}}$ ット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0 $\mu$ g)当り0.5 $\mu$ g	鉢上時又は定植時	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	グレース乳剤	フルキサミド乳剤	30		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	コルト顆粒水和剤※	ピリフルキサゾン水和剤	9B		4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	スタークル顆粒水溶剤※	ジノテフラン水溶剤	4A		100倍		セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{\bar{e}}$ - $\bar{\bar{h}}$ - $\bar{\bar{b}}$ ット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0 $\mu$ g)当り0.5 $\mu$ g	鉢上時又は定植時	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダブルシューター-SE	脂肪酸グリセリド・ステノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	チェス顆粒水和剤	ピメトジソン水和剤	9B		5000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロム水和剤	4C		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アリロックス粒剤オメガ	シアントラニリアロール粒剤	28		2g/株		育苗期後半～定植時	株元散布	1回	トマト
					2g/株		鉢上げ時	育苗培土混和	1回	トマト
	ベルストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	トマト
					1～2g/株		定植時	植穴処理 土壌混和	1回	トマト
					5g/培土 $\mu$ g		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	トマト
				セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{\bar{e}}$ - $\bar{\bar{h}}$ - $\bar{\bar{b}}$ ット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\mu$ g)当り50g		育苗期後半	散布	1回	トマト	
ベルベアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
ベルマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20 $\mu$ g(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト	
モレスタン水和剤	キネキサリン系水和剤	"UN(I*)		1500～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト	
ラノテープ	ピリプロキシフェン剤	7C		10～50 $\mu$ m <sup>2</sup> /10a		栽培期間中	作物体の付近に設置する。	1回	野菜類(施設栽培)	
粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類	
トマトサビダニ	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	イカワフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		400倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期	散布	-	トマト
	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ネコブセンチュウ	ガードホブ液剤	ホスチアセート液剤	1B	劇	4000倍	2 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	収穫前日まで	土壌灌注	1回	トマト
ハスモンヨトウ	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ハダニ類	ダブルシューター-SE	脂肪酸グリセリド・ステノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ハダクダシムシ類	アファム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	アベール粒剤	アセチアリド・シアントラニリアール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・ステノサド水剤	「-」,5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ベネビアOD	シアントラニリアール水和剤	28		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ベリマークSC	シアントラニリアール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20 $\mu$ g (1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
マハモグサシバ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ミカンキイロアザミウマ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	コテツロアール	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

※ タバココナジラミバイオタイプQに効果あり（福井県農業試験場調べ）

## トマト黄化葉巻病対策

### 1 トマト黄化葉巻病について

#### (1) 病原ウイルス

トマト黄化葉巻ウイルス(Tomato yellow leaf curl virus :TYLCV)

#### (2) 病徴

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間が黄化し縮葉となる。  
病勢が進むと頂部が叢生し、茎部の節間が短くなり株全体が黄化萎縮する。

#### (3) ウイルスの伝染源

罹病しているトマトと考えられる。

#### (4) ウイルスの伝染方法

タバココナジラミバイオタイプ B および Q によって媒介される。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、他の害虫(オンシツコナジラミなど)による虫媒伝染はしないが、接ぎ木伝染はする。

### 2 防除対策

#### 物理的防除

- ・0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、タバココナジラミのハウス内への侵入を防ぐ(換気扇や遮光等施設内の高温対策が必要)。
- ・黄色粘着板を設置し、誘殺、発生消長の把握に用いる。
- ・太陽光反射マルチ、UV除去フィルムを利用し、タバココナジラミの侵入を阻止する。

#### 耕種的防除

- ・冬期間中に無栽培期間を設け、伝染源となるトマトをなくす。また、ハウス内を寒さにあて、タバココナジラミの越冬を防ぐ。
- ・雑草はタバココナジラミの繁殖場所となるので、ハウス内外の除草を行う。
- ・発病株は見つけ次第すぐに抜き取る。その際、発病株は伝染源にならないよう土中に埋める、ビニール袋などで密封・枯死させてから廃棄する等して処分し、圃場周辺に放置しない。

#### 化学的防除

- ・は種時にベストガード等の粒剤を混和する。購入苗は納入後すぐにベストガード等の粒剤を散布し、タバココナジラミの密度抑制に努める。(育苗期間の防除薬剤を確認しておくこと)
- ・タバココナジラミの発生が見られたら、すぐに防除する。
- ・散布時は、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。(次頁表参考)

## 【参考】トマトのタバコナジラミ(コナジラミ類)防除薬剤の一覧

IRAC コード	防 除 方 法			農 薬 使 用 基 準		注 意 事 項	バイオ タイプ	
	薬 剤 名	使 用 濃 度	10アール 当たり使用量	使用時期 (収穫何日 前まで)	使 用 回 数		B	Q
3A	トレボン乳剤	1,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	×
4A	ベストガード粒剤	植穴処理土壌混和 1~2g/株		定植時	1回		○	○
	ベストガード水溶剤	1,000~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	アドマイヤー水和剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	△
	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	2,000~3,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	△
4A+28	アベイル粒剤		2g/株	育苗期後半~ 定植当日	1回		○	△
4C	トランスフォームフロアブル	1,000~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
5+未	ダブルシューターSE	1,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
6	アニキ乳剤	1,000~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	アグリメック	500~1,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
7C	ラノーテープ		10~50 m <sup>2</sup>	栽培期間中	1回	施設栽培に限る	○	×
9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	コルト顆粒水和剤	4,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
15	ノーモルト乳剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	△
16	アプロード水和剤	1,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回	幼虫のみの登録	○	△
23	クリアザールフロアブル	2,000~4,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
28	ベネビアOD	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	プリロソソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半~ 定植時	1回		○	○
	ベリマーク SC	25 ml/400株	10~20ℓ/400株	育苗期後半~ 定植当日	1回		○	○
30	グレーシア乳剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
UN	モレスタン水和剤	1,500~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	5回		○	△
未	粘着くん液剤	100倍	150~300ℓ	前日まで	—		○	○

※JA 全農、福井県農試調べ ○…効果あり △…効果あるものと劣るものがある ×…効果劣る

## トマト灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除対策

### 1 発生生態

灰色かび病…果実、花卉、葉、茎に発生。被害部が褐変して、灰色のかびを生じる。発病適温は 15～23℃ (22～23℃で、湿度が 85～90%以上の条件が続くと激発)。胞子の飛散は、曇雨天の時に多い。

葉かび病 …葉に発生。初め葉裏に灰黄色～緑褐色のビロード状のかびを生じ、その後灰褐色～灰紫色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 20～25℃。感染から発病までの期間は約 2 週間。外観ですすかび病との区別は困難。

すすかび病…葉に発生。初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が生じ、やがて灰褐色粉状のかびを生じ、進展すると円形あるいは葉脈に囲まれた不整形病斑となり灰褐色～黒褐色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 26～28℃。

### 2. 防除のポイント

- 1) 換気や灌水量に注意。低温時は暖房機や循環扇による通風により植物体への結露を防止し、施設内の湿度低下に努める。
- 2) マルチを行い、ハウス内の湿度の上昇や土壌からの病原菌の伝染を防止する。
- 3) 整枝、剪定により過繁茂を避け、採光や通風をよくする。また、適切な肥培管理に努め、健全な生育を促す。
- 4) 発病した果実や葉等は伝染源となるため、速やかに除去し圃場外で処分する。
- 5) 発病前から薬剤散布を行い、予防に努める。
- 6) 耐性菌の発生を抑えるため、同一系統および同一薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

### 【参考】 トマトの灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除薬剤

FRAC コード	農薬の名称	使用時期	灰色かび病	葉かび病	すすかび病	うどんこ病	輪紋病	疫病
2	ロブラール水和剤	収穫前日まで	○				○	
	スミレックス水和剤	収穫前日まで	○					
1+10	ゲッター水和剤	収穫前日まで	○	○				
	ニマイバー水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○		
12	セイビアフロアブル 20	収穫前日まで	○					
9	フルピカフロアブル	収穫前日まで	○					
3+M3	テーク水和剤	収穫前日まで		○		○		○
3	トリフミン水和剤	収穫前日まで		○	○	○		
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	収穫前日まで	○	○	○			
7	アフェットフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	カンタスドライフロアブル	収穫前日まで	○	○				
	パレード 20 フロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	ネクスターフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
7+11	シグナム WDG	収穫前日まで	○	○	○	○		
M7	ベルコート水和剤	収穫前日まで	○	○				
21+M5	ドーシャスフロアブル	収穫前日まで		○			○	○
24+M1	カスミンボルドー	収穫前日まで		○			○	○
19	ポリオキシ AL 水和剤	収穫前日まで	○	○				
BM2	インプレッションクリア	発病前～発病初期まで	○	○	○	○		
	エコショット	収穫前日まで	○	○				
	ボトキラー水和剤	発病前～発病初期	○			○		
M5	ダコニール 1000	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○
M3	ジマンダイセン水和剤	収穫前日まで		○			○	○
17	ピクシオ DF	収穫前日まで	○					
NC	カリグリーン	収穫前日まで	○	○		○		
	ハーモメイト水溶剤	収穫前日まで	○			○		

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認すること。

注) 地域により、灰色かび病、葉かび病に対する N-フェニルピロリジン系薬剤効果が低下しているところがあるので、注意する。

## (2) ミニトマト

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	ミニトマト
	クロスアウトフロアブル	ピリオフェノ水溶剤	50		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ミニトマト
	ハモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水溶剤	バチルス・スプレリス水溶剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					15g/10a/日	発病前～発病初期	ダクト内投入	-		野菜類(トマトを除く)
疫病	Zボルトー	銅水溶剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	ミニトマト
	ザンブロDMフロアブル	アトクランジ・ジメトール水溶剤	40,45		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
菌核病	ゲッター水溶剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水溶剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
すすかび病	トリフィン水溶剤	トリフルシール水溶剤	3		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
苗木枯病(リグネリア菌)	バシタック水溶剤75	メダロニル水溶剤	7		750～1500倍	3g/m <sup>2</sup>	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	ミニトマト
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ミニトマト
灰色かび病	ゲッター水溶剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水溶剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
	ボトキラー水溶剤	バチルス・スプレリス水溶剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
					10～15g/10a/日	発病前～発病初期	ダクト内投入	-		野菜類(トマトを除く)
葉かび病	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	ミニトマト
	ゲッター水溶剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水溶剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
斑点細菌病	Zボルトー	銅水溶剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
輪紋病	Zボルトー	銅水溶剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	ミニトマト
アブラムシ類	フェス顆粒水溶剤	ピメトリン水溶剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
材カビ	アファム乳剤	エマメクシン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
	エスマルクDF	BT水溶剤	11A		1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	マトリックフロアブル	クロマフェジド水溶剤	18		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ミニトマト
コナジラミ類	フェス顆粒水溶剤	ピメトリン水溶剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	ミニトマト
					1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	ミニトマト
					5g/培土g		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	ミニトマト
					セル成型育苗トレイ1箱 またはベーパーポット 1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4g) 当り50g散布		育苗期後半	散布	1回	ミニトマト
	ベリマークSC	シアントラニリアール水溶剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20g(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ミニトマト
					400株当り25mL	400株当り20～200g(1株当り50～500mL)	定植直後	株元灌注	1回	ミニトマト
トマトザビダニ	アファム乳剤	エマメクシン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
	イオウフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		400倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	ミニトマト
ネコセンチュウ	ガードホープ液剤	ホスチアゼート液剤	1B	劇	4000倍	2g/m <sup>2</sup>	収穫前日まで	土壌灌注	1回	ミニトマト
ハメグリバエ類	アファム乳剤	エマメクシン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト

## (3) なす

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	インブ レッションクリア	バチルスアミロリクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ホスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		3000～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	バルミノ	キネキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	プロバティフロアブル	ビリオフィノ水和剤	50		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	モレスタン水和剤	キネキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
灰色かび病	カンタストライフロアブル	ホスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	スミレックス水和剤	プロシドミン水和剤	2		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	なす
					250g/10a	5g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	6回以内	なす
	ポリベリン水和剤	イミノタジン酢酸塩・ホリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす	
苗木枯病	オソサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M4		800倍	2g/m <sup>2</sup>	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	なす
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	なす
アザミヤカ類	アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	なす
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	なす
	ダブールシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	"[-],5		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
アザラム類	アグロリン乳剤	シペルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	なす
					1g/株		育苗期後半	株元散布	1回	なす
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	100g/10a	5g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	2回以内	なす
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	なす
	オルトラ粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	なす
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	なす
	ハクザップ水和剤	フェンハレト・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	マブリック水和剤20	フルバネート水和剤	3A	劇	4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	なす
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす	
				500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	なす	
ロテイー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす	
材カコガ	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
オンシツコナジラミ	アテ・イオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	オルラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布 又は植穴 処理	1回	なす
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布 又は植穴 処理	1回	なす
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
チャノホリダニ	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(*)		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
チャノホリダニ幼虫	アブ・ロート水和剤	アブ・ロフェジノン水和剤	16		1000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
テントウムシダマシ類	アテ・イオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000～2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
ネリムシ類	カルホス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面 散布土壌 混和处理	2回以内	なす
ハスモンヨトウ	アテント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		1000倍	150～300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす
	ノモルト乳剤	テアルベンスロン乳剤	15		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	18		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
ハダニ類	コテツフロアブル	クオルフェビール水和剤	13	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす
	コロマイト乳剤	ミルベメクチン乳剤	6		1500倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	ハロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～350%/10a	収穫前日まで	散布	1回	なす
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300%/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
ミナキイロアザミウマ	コテツフロアブル	クオルフェビール水和剤	13	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす

## (4) ピーマン

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	トリフミン水和剤	トリフルシール水和剤	3		3000~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
					20g/100立方 m(50m <sup>2</sup> ×2m)	-	収穫前日まで	くん煙	3回以内	ピーマン
苗立枯病	オーソサイド水和剤80	キャブタン水和剤	M4		800倍	2g/m <sup>2</sup>	は種後から2~3葉 期まで	灌注	2回以内	ピーマン
					種子重量の0.2 ~0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ピーマン
灰色かび病	ロブラル水和剤	イブロン水和剤	2		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ピーマン
斑点病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
アザミカ類	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴又は株 元土壌混和	1回	ピーマン
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	アデイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴又は株 元土壌混和	1回	ピーマン
					1g/株		育苗期後半	株元散布	1回	ピーマン
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ロブイー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
材カガ	アファーム乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ピーマン
	スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ピーマン
カガ	アデイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ランネット45DF	メソシル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫開始14日前ま で	散布	4回以内	ピーマン (露地栽培)
ネリムシ類	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6~9kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	ピーマン
ハスモンヨトウ	ランネット45DF	メソシル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫開始14日前ま で	散布	4回以内	ピーマン (露地栽培)
ハダニ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ロブイー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン

## (5) すいか

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
うどんこ病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	テーク水和剤	シメナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(*),3		600~800倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか	
	トリフミン水和剤	トリフミン水和剤	3		3000~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	バレード 2070アブル	ビラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
	パソチオTF顆粒水和剤	シフルフェナトール・トリフミン水和剤	3,U6		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか	
	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(*)		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
疫病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500~800倍	100~300g/10a	-	散布	-	すいか	
褐色腐敗病	フォリオール	メタキシルM・TPN水和剤	4,M5		800~1000倍	100~400g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	すいか	
	ホライズント ライフアブル	シモキサニル・ファモキサトール水和剤	11,27		2500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
菌核病	バレード 2070アブル	ビラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	プロピネブ水和剤	M3		400~600倍	150~200g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
	キサン水和剤	キャブタン・有機銅水和剤	M1,M4		500~600倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	すいか	
	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ジマンダ イオン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
	ストロピーフロアブル	クレキシメチル水和剤	11		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ダユニール1000	TPN水和剤	M5		700倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
	テーク水和剤	シメナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(*),3		600~800倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか	
	ニマイール水和剤	ジエトフェンカルブ・ヘノミル水和剤	1,10		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	ベルコート水和剤	イミノタジンアルベシル酸塩水和剤	M7		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
	つる枯病	アフェットフロアブル	ベソチオピラド水和剤	7		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
アントラコール顆粒水和剤		プロピネブ水和剤	M3		400~600倍	150~200g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
シグナムWDG		ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
ジマンダ イオン水和剤		マンゼブ水和剤	"UN(*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
ストロピーフロアブル		クレキシメチル水和剤	11		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
ダユニール1000		TPN水和剤	M5		700~1000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
バレード 2070アブル		ビラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
ベルコート水和剤		イミノタジンアルベシル酸塩水和剤	M7		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
ロブテール水和剤		イブロジオン水和剤	2		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
苗立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メプロニル水和剤	7		750~1500倍	3g/m <sup>2</sup>	は種時~子葉展開時	土壌灌注	1回	すいか	
						種子重量の0.4%	は種前	種子粉衣	1回	すいか	
べと病	ジマンダ イオン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
アザミカ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500~1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	シハルメトリン乳剤	3A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで(ただし、露地栽培については着果後)	散布	3回以内	すいか	
	ウララDF	フロニカミド水和剤	29		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか	
	ダントツ水溶剤	クロチアジン水溶剤	4A		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ベースガード 粒剤	ニテンピラム粒剤	4A			1~2g/株		定植時	植穴処理	1回	すいか
						1g/株		育苗期	株元処理	1回	すいか
	マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	3A	劇	4000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	すいか	
	モスピラン粒剤	アセチアピリド粒剤	4A		1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	すいか	
	モベントフロアブル	スピロテトラト水和剤	23			2000倍		収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
						500倍	25~50mL/株	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	すいか

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
カリメカ	フェニックス顆粒水和剤	フルベソジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
カリハシ	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
コナジラミ類	モベントフロアブル	スピロトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
タネバエ	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	すいか
ハモシトウ	フェニックス顆粒水和剤	フルベソジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
ハダニ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	カネマイトフロアブル	アセキシル水和剤	20B		1000～1500倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	1回	すいか
	ハロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～350g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	モベントフロアブル	スピロトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
ミナキイロアザミウマ	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか

## すいか炭疽病対策

### 1 すいか炭疽病について

すいか炭疽病は、コレトリカムというカビの一種によって引き起こされる病気である。発病適温は 22～28℃で、湿度が高いと 24 時間以内に胞子が発芽し、48 時間以内に組織に侵入し、1週間に以内に発病する。特に、降雨があると病斑状の胞子が飛散し、他の茎葉、果実に伝染し、蔓延する。露地栽培では、トンネルを除去したところから発病しはじめ、気温が低く、雨の多い年に多発する。また、窒素過多でも発病が多くなる。

### 2 防除対策

#### 育苗期防除対策

- ・苗床やハウスでは多発することは少ない。
- ・苗床では高温多湿を避ける。
- ・苗床では発病前から予防散布を行い、健全な苗を確保する。
- ・発病を認めたら治療効果のある薬剤を7日おきに2～3回散布する。

#### 圃場防除対策

- ・連作は避ける。排水の悪い圃場は、排水対策を実施する。
- ・降雨のはねかえりで感染するので、早めに敷きわらやポリマルチを行う。
- ・前年、炭疽病が発生した圃場は原則、作付けを避けるが、やむを得ず作付けする場合は、土壤消毒の実施や予防散布に努める。
- ・トンネル除去後は、感染の好適条件にもなることから、1 週間おきを目安に予防防除を行う。
- ・**ベンゾイミダゾール系剤(トップジン、ベンレート等)は耐性菌が発生しているので使用しない。**
- ・不要な側枝は早めに除去し、採光と通風しをよくする。摘果玉は圃場内に放置せず、圃場外に持ち出すか埋設する。
- ・降雨後は、薬剤散布量を十分取り、果実表面にも十分薬剤が付着するように散布する。
- ・炭疽病の発生を確認したら、治療効果のある薬剤を3～5日おきに少なくとも2～3回散布する。新しい病斑の形成がなくなったら、予防効果のある薬剤を7日おきに散布する。特に、果実付近の防除を徹底する。
- ・収穫時に降雨があった場合、果実表面が濡れたり土壌が付着したりしているものは、コンテナに積み込む前に固く絞ったタオルで十分拭き取る。
- ・収穫終了後、発病株の罹病部位(葉や果実)は圃場外に持ち出し、埋設する。

#### 【参考】すいか炭疽病防除薬剤一覧

FRAC コード	農薬の名称	使用時期 (収穫何日 前まで)	その他の適用病害虫									効果		
			つる 枯 病	疫 病	褐 斑 細 菌 病	べ と 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	褐 色 腐 敗 病	ハ ダ ニ 類	果 実 汚 染 細 菌 病	予 防	治 療	
M03	アントラコール顆粒水和剤	前日まで	○										○	
	ジマンダイセン水和剤	7日前まで	○	○	○	○							○	
M01	ドキリンフロアブル	前日まで	○									○	○	
M01+M04	オキシラン水和剤	14日前まで	○										○	
M04	オーソサイド水和剤80	14日前まで	○			○							○	
M05	ダコニール1000	3日前まで	○										○	
4+M05	フオリオゴールド	7日前まで	○							○			○	○
11+M05	アミスターオプティフロアブル	3日前まで	○					○	○	○			○	○
11+7	シグナムWDG	前日まで	○					○	○	○			○	○
11	アミスター20フロアブル	前日まで	○										○	○
	ストロビーフロアブル	前日まで	○						○				○	○
2+M01	スクレタン水和剤	7日前まで	○		○		○						○	○
21+M05	ドーシャスフロアブル	3日前まで	○							○			○	○
M07	バルケート水和剤	前日まで	○					○	○				○	
10+1	ゲッター水和剤	前日まで											○	○
3+M03	テーク水和剤	7日前まで	○						○				○	○
3	スコア顆粒水和剤	前日まで	○						○				○	○
10+1	ニマイバー水和剤	前日まで	○					○	○				○	○
11+M07	ファンベル顆粒水和剤	前日まで	○					○	○				○	○
40+M05	プロボーズ顆粒水和剤	3日前まで								○			○	○

\*使用濃度、使用量、使用回数等は確認すること。



## (7) きゅうり

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	アフェットフロアブル	ベンチオピラト水和剤	7		150g/10a	10%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	きゅうり
					2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800~1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ストロビ-フロアブル	クレキシメチル水和剤	11		3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	トリアミン水和剤	トリアミン水和剤	3		3000~5000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	ハッパ乳剤	なたね油乳剤	「-」		200倍	-	-	散布	-	きゅうり
	バンチョTF顆粒水和剤	シアルフェナト・トリアミン水和剤	3,U6		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	きゅうり
	フルビカくん煙剤	メバニピリムくん煙剤	9	劇	くん煙室容積500立方 m(床面積250m <sup>2</sup> ×高さ 2m)当り50g(1錠)	-	収穫前日まで	くん煙(通 常10~15時 間)	4回以内	きゅうり
	ベジセイバー	ベンチオピラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000~4000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
				20g/100立方m(50m <sup>2</sup> × 2m)	-	収穫前日まで	くん煙	3回以内	きゅうり	
				50~100g/10a	5%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	きゅうり	
ラリ-水和剤	マイクロタニル水和剤	3		4000~8000倍	150~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり	
疫病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
褐斑病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ストロビ-フロアブル	クレキシメチル水和剤	11		3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	プロボ-ズ顆粒水和剤	ベンチアパリカルブイソプロピル・ TPN水和剤	40,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベジセイバー	ベンチオピラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
菌核病	スミレックス水和剤	プロシミドン水和剤	2		1000~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	きゅうり
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	ベンレート水和剤	ベンゾミル水和剤	1		2000~3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
黒星病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
炭疽病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
つる枯病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	トップジンMベ-スト	チオファネートメチルベ-スト剤	1		原液	-	発病初期	塗布	5回以内	きゅうり
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
苗立枯病	オゾンサイト水和剤80	キャブタン水和剤	M4		800倍	2%/m <sup>2</sup>	は種後から2~3 葉期まで	灌注	5回以内	きゅうり
					種子重量の0.2~0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	きゅうり
苗立枯病(ビシム菌)	タチカレン液剤	ヒドロキシイキサゾール液剤	32		500~1000倍	3%/m <sup>2</sup>	は種直後	土壌灌注	3回以内	きゅうり
苗立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		750~1500倍	3%/m <sup>2</sup>	は種時~子葉展 開時	土壌灌注	1回	きゅうり
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	きゅうり
灰色かび病	スミレックス水和剤	プロシミドン水和剤	2		1000~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	きゅうり
					200g/10a	10%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	2回以内	きゅうり
	フルビカくん煙剤	メバニピリムくん煙剤	9	劇	くん煙室容積500立方 m(床面積250m <sup>2</sup> ×高さ 2m)当り50g(1錠)	-	収穫前日まで	くん煙(通 常10~15時 間)	4回以内	きゅうり
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000~3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000~1500倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
				200g/10a	5%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	4回以内	きゅうり	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
斑点細菌病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルト-	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類
べと病	ザンプロDM70アブル	アマトラジ・ジメトール水和剤	40,45		1500~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ストロビ-70アブル	クレスキシメチル水和剤	11		3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ゾーベックエンテクタSE	アミスルプロム・ホキサチアピプロリン水和剤	21,49		4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	きゅうり
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
						10g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	12回以内	きゅうり
	プロボ-ズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベストファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアハリカルブイソプロピル水和剤	27,40		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ランマン70アブル	シアゾファミド水和剤	21		1000~2000倍	150~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
	リドミルコートMZ	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	"UN(*),4		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
アブラムシ類	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベストアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	モスビラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	粘着くん液剤	デソフン液剤	[-]		100倍	150~300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
ウリハムシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
オンシツコナジラミ	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	きゅうり
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	きゅうり
オンシツコナジラミ幼虫	アプロート水和剤	プロフェジソン水和剤	16		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
コナジラミ類	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(*)		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
タネバエ	カルホス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		4~6kg/10a		は種時	土壌表面散布土壌混和処理	1回	きゅうり
	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		5~8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	きゅうり

## (8) かぼちゃ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	かぼちゃ
うどんこ病	シグナムWDG	ビラカストロピン・ボスカリド 水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	かぼちゃ
	パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリアルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	かぼちゃ
	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	かぼちゃ
べと病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	かぼちゃ
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
ウリハムシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
ウリハムシ幼虫	ダ イアジ ノン粒剤3	ダ イアジ ノン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付時	土壌混和	1回	かぼちゃ
タネバエ	ダ イアジ ノン粒剤3	ダ イアジ ノン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	かぼちゃ
ハダニ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ

## (9) いちご

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
萎黄病	ベンレート水和剤	ベニミル水和剤	1		500倍	-	仮植前	1～3時間苗根部浸漬	1回	いちご
					500倍	100mL/株	本圃定植後 但し、収穫30日前まで	灌注	1回	いちご
					500倍	50～100mL/株	育苗期	灌注	3回以内	いちご
うどんこ病	アフェットフロアブル	ベンチオビラト水和剤	7		2000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	サンクス乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300～600倍	150～500 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類 (なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
	シグナムWDG	ビラカストロピン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
					50倍	5 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	いちご
	ボリオキシAL水和剤	ボリオキシ水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫開始14日前まで	散布	3回以内	いちご
	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(I*)		3000～4000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
じゃのめ病	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		3000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	いちご
炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	ブロビネブ水和剤	M3		500倍	150～300 $\mu$ L/10a	仮植栽培期	散布	6回以内	いちご
	シグナムWDG	ビラカストロピン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300 $\mu$ L/10a	仮植栽培期 但し収穫76日前まで	散布	6回以内	いちご
	セバアーフロアブル20	フルジキソニル水和剤	12		1000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
灰色かび病	アフェットフロアブル	ベンチオビラト水和剤	7		2000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	シグナムWDG	ビラカストロピン・ボスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	スミレックス水和剤	ブロシミン水和剤	2		2000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	セバアーフロアブル20	フルジキソニル水和剤	12		1000～1500倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	ボリオキシAL水和剤	ボリオキシ水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫開始14日前まで	散布	3回以内	いちご
	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1500倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	いちご
アブラムシ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	-	いちご
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	いちご
イトトンボ	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300 $\mu$ L/10a	育苗期	散布	4回以内	いちご
					1000倍	100～300 $\mu$ L/10a	定植後生育初期	散布	4回以内	いちご
コガネムシ類幼虫	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	2～3 $\mu$ L/m <sup>2</sup>	移植活着後(育苗期)	灌注	4回以内	いちご
ハダニ類	カネマイフロアブル	アセキシル水和剤	20B		1000～1500倍	150～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	1回	いちご
	ダニサラバフロアブル	シフルメフェン水和剤	25A		1000倍	100～350 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	マイトコネフロアブル	ビフェナゼート水和剤	20D		1000倍	100～300 $\mu$ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご

## (10) キャベツ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
菌核病	オルフィンフロアブル	フルビラム水和剤	"[-]"(※)		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	1回	キャベツ
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ネクスターフロアブル	インピラザム水和剤	7		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	バレード207フロアブル	ピラジフルミド水和剤	7		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、 ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植当 日	灌注	1回	キャベツ
					2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
黒腐病	ゾルクトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツ を除く)
	リゼメート粒剤	ブロンナール粒剤	P2		6～9kg/10a		定植時	全面土壌 混和又は 作条土壌 混和	1回	キャベツ
	カスミンゾルトー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	ヨネン水和剤	ニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	キャベツ
軟腐病	ゾルクトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツ を除く)
	カスミンゾルトー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	マスタース水和剤	シュートモナシロア水和剤	「 (生)」		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	キャベツ
	ヨネン水和剤	ニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	キャベツ
根こぶ病	ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	キャベツ
					500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペ ーパーポット1冊(30×60cm、使用 土壌約2.5～7g)当り2g	定植前日～当日	灌注	1回	キャベツ
べと病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN"(※)		400～600倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	キャベツ
アムシ	アキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	アファームイクセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェニロン 水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	カスケード乳剤	フルフェクソン乳剤	15		16～24倍	0.8～1.6g/10a	収穫7日前まで	無人航空 機による 散布	2回以内	キャベツ
					2000～4000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	グレース乳剤	フルキサメタミド乳剤	30		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	コテツフロアブル	クロルフェビル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	ジュリボフロアブル	クロラントラニリブロール・チアマトキサム水 和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2g	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペ ーパーポット1冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当 日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	スビーエース顆粒水和剤	スビーサド水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫 前日まで	散布	-	キャベツ	
トロン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
アムシ	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ	
	ブレイフアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ	
	ブレイブソフアブル5	クワントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または <sup>ハ</sup> - <sup>ハ</sup> -ポット1冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当 日	灌注	1回	キャベツ	
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ	
					500倍	苗地床1㎡当り2g	育苗期後半～定植当 日	灌注	1回	キャベツ	
	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ	
	モスピラン粒剤	アセミアブリト粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	キャベツ	
					1～2g/株		定植時	植穴土壌 混和	1回	キャベツ	
ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ		
アザミヤカ類	ベリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または <sup>ハ</sup> - <sup>ハ</sup> -ポット1冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当 日	灌注	1回	キャベツ	
	モブントフアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム水溶剤	4A		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または <sup>ハ</sup> - <sup>ハ</sup> -ポット1冊(30×60cm・使用 土壌約3～4g)当り0.5g	育苗期後半	灌注	1回	キャベツ	
					2000～3000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ	
	ベリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または <sup>ハ</sup> - <sup>ハ</sup> -ポット1冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当 日	灌注	1回	キャベツ	
											モスピラン粒剤
						1～2g/株		定植時	株元散布	1回	キャベツ
						1g/株		定植時	植穴土壌 混和	1回	キャベツ
	モブントフアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
カガキ類	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ	
カガキコガ	アネキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
	ブレイフアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ	
	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ	
コガ	アタロン乳剤	クワルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ	
	アネキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
	アファームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェスロン水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		16～24倍	0.8～1.6g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による 散布	2回以内	キャベツ	
					2000～4000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ	
	グレースシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ	
	コテツフアブル	クワルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ	
	ジュリボフアブル	クワントラニリブロール・チアマトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2g	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ	
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱または <sup>ハ</sup> - <sup>ハ</sup> -ポット1冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当 日	灌注	1回	キャベツ	
					4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ		
ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫 前日まで	散布	-	キャベツ		

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
コガ	トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類 (パセリ、えごま(葉)を除く)
	トクチオン乳剤	ブロチホス乳剤	1B		1000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	3A		1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ノモルト乳剤	テフルベノズロン乳剤	15		16倍	1.6 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	キャベツ
					2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで			
	バダソング水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	ブレバソングアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{b}$ - $\bar{b}$ -ポット1冊(約30 $\times$ 60cm、使用土壌約1.5~4 $\mu$ g)当り0.5 $\mu$ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
					2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
					500倍	苗地床1 $m^2$ 当り2 $\mu$ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
モズラン粒剤	アセタミプリト粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	キャベツ	
				1~2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	キャベツ	
ネリムシ類	カルホス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和处理	1回	キャベツ
	ダイジノン粒剤3	ダイジノン粒剤	1B		6~9kg/10a		収穫30日前まで	土壌混和	2回以内	キャベツ
	デナボン5%ベイト	NAC粒剤	1A		3~6kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	3回以内	キャベツ
	ネリエースK	イキサチオン粒剤	1B		3kg/10a		は種時又は定植時	土壌表面株元処理	1回	キャベツ
ハイダラノメイガ	アファームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェキサゾン水和剤	15,6		1000~1500倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジュリボアアブル	クロラントラニリブロール・チアメトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1 $m^2$ 当り2 $\mu$ g	は種時~育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{b}$ - $\bar{b}$ -ポット1冊(約30 $\times$ 60cm、使用土壌約1.5~4 $\mu$ g)当り0.5 $\mu$ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
マトリックアアブル	クロマフェノジド水和剤	18		2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ	
ハモク	アクセルアアブル	メタフルミジン水和剤	22B		1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	アネキ乳剤	レビメクチン乳剤	6		1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	コテツアアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	キャベツ
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000~4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ブレオアアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	アアアSC	アアアニリト水和剤	30		2000~4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベリマクSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{b}$ - $\bar{b}$ -ポット1冊(約30 $\times$ 60cm、使用土壌約1.5~4 $\mu$ g)当り0.5 $\mu$ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
	マッチ乳剤	ルフェキサゾン乳剤	15		3000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ランネット45DF	メソル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ヨトウムシ	アファームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェヌロン水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	コテツフロアブル	クロルフェニル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	ジュリボフロアブル	クワントラニリブロール・チアマトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2g	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	キャベツ
	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	3A		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ハウザップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	キャベツ
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミト水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
ランネート45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ	

## キャベツ コナガ防除対策

### 防除のポイント

- 1) 育苗時または定植時に薬剤処理を行い、初期防除を徹底する。
- 2) 老齢幼虫や蛹では薬剤の効果が劣るため、早期発見に努め若齢幼虫期に防除を行う。
- 3) 幼虫は葉の裏に生息するので、葉の裏まで薬液がかかるように散布する。
- 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統の薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

#### コナガに対する薬剤感受性 (2015年、2018年病害虫防除室調査)

- 低 (ほとんどの地域で防除効果 50%以下) …有機リン系、カーバメート系
- 地域によって変動するもの…ジアミド系
- 高 (ほとんどの地域で防除効果 80%以上) …ピリダリル、ピレスロイド系

※抵抗性の発達程度は地域により差があるため、効果が不十分であれば、使用を避ける。

(散布2～5日後に幼虫が多数生息している場合は、抵抗性が発達した可能性が高い)

- 5) 性フェロモンでの防除も有効である (→フェロモン剤使用方法を参照)。
- 6) 収穫残さで増殖するため、できるかぎり早く処分する。
- 7) 圃場周辺に自生しているアブラナ科雑草は、本虫の発生源となるため、こまめな除草を心がける。

### 【参考】キャベツのコナガ防除薬剤一覧

IRAC コード	農薬名	使用時期	コナガ	アブラ ムシ類	アオ ムシ	ハス モン ヨトウ	ヨトウ ムシ	タマナギ ンウワバ	ハイマ ダラン メイガ	オオタ バコガ
1A	ランネート45DF	収穫14日前まで	○	○	○	○	○	○		
1B	オルトラン粒剤、ジェイエース粒剤	定植時	○	○	○	○	○			
	オルトラン水和剤、ジェイエース水和剤	収穫30日前まで	○	○	○	○	○			
	トクチオン乳剤	収穫21日前まで	○	○	○	○	○	○ウワバ類		
	エルサン乳剤	収穫14日前まで	○	○	○	○	○		○	
3A	トレボン乳剤	収穫3日前まで	○	○	○	○				
4A	モスピラン粒剤	定植前日～定植当日	○	○	○	○			○	
5	スピノエース顆粒水和剤	収穫3日前まで	○		○		○	○	○	
	ディアナSC	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
6	アニキ乳剤	収穫3日前まで	○		○	○		○ウワバ類	○	○
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期 (収穫前日まで)	○		○	○	○			○
	トアロー水和剤CT	発生初期 (収穫前日まで)	○		○		○			
13	コテツフロアブル	収穫前日まで	○		○	○	○	○	○	○
14	パダンSG水溶剤	収穫14日前まで	○	○	○				○	
15	ノーモルト乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○		
	アタブロン乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	
	マッチ乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○		○	
	カスケード乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	○
22B	アクセルフロアブル	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
23	モベントフロアブル	収穫7日前まで	○	○	○					
28	ベネビアOD	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○ウワバ類	○	○
	プレバソン粒剤	育苗期後半～定植当日	○		○				○	
	プレバソンフロアブル5	育苗期後半～定植当日	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
	ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	○	○	○	○	○	○ウワバ類	○	
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
30	グレーシア乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
UN	プレオフロアブル	収穫7日前まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
3A,1B	ハクサップ水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○		○
6,15	アフームエクセラ顆粒水和剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	
28, 4A	ジュリボフロアブル	は種時～育苗期後半	○	○	○	○	○		○	
		育苗期後半～定植当日	○	○	○	○	○		○	
		収穫3日前まで	○	○	○	○	○		○	○

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認する。

## (11) ブロッコリー

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
花蕾腐敗病	マスタビース水和剤	シュート・モナス・ロデシア水和剤	「- (生)」		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	-	ブロッコリー
黒腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルトー	カサマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ブロッコリー
	ヨネボンド水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ブロッコリー
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500~1000倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
根こぶ病	オラクル粉剤	アミルプロム粉剤	21		20kg/10a		定植前	作条土壌混和	2回以内	ブロッコリー
					30kg/10a		定植前	全面土壌混和	2回以内	ブロッコリー
	ランマンフロアブル	シアントラニプロール水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	ブロッコリー
					500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5~7%)当り2%	定植前日~当日	灌注	1回	ブロッコリー
アムシ	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ブレバソソフロアブル5	クロラントラニプロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り0.5%	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ブロッコリー
					2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
					2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ヘネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
1g/株						定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー	
アムシ類	ヘネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
1g/株						定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー	
コガ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000~2000倍	100~300L/10a	発生初期 但し、 収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期 但し収 穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	バダソSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ブロッコリー
	ブレバソソフロアブル5	クロラントラニプロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り0.5%	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ブロッコリー
					2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
					2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ヘネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
1~2g/株						定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6~9kg/10a		収穫30日前まで	土壌混和	2回以内	ブロッコリー
ハイマダラノメイガ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
ハスモンヨトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
ヨトウムシ	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a(2g/株)		定植時	株元散布	1回	ブロッコリー
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a(2g/株)		定植時	株元散布	1回	ブロッコリー
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー

## (12) かぶ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
根こぶ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		20~40kg/10a		は種前	作条施用土 壤混和	1回	かぶ
	ネビジン粉剤	フルスファミド 粉剤	36		20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混 和	1回	かぶ
					30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	かぶ
フロキサド 粉剤	フルアジナム粉剤	29		30~40kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	かぶ	
アムシ	トアロ-フロアブ ルCT	BT水和剤	11A		1000~2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
	マラソン乳剤50	マラソン乳剤	1B		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
アラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000~3000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
カブラハチ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
キスジノミハムシ	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(*)	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	かぶ
	フォース粒剤	テアルトリノ粒剤	3A	劇	4kg/10a		は種時	播溝土壌混 和	1回	かぶ
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミアリト 水溶剤	4A	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫21日前まで	散布	1回	かぶ
コガ	トアロ-フロアブ ルCT	BT水和剤	11A		1000~2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
ハイマダラメイガ	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(*)	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	かぶ
ヨウムシ	トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A		500~1000倍	100~300%/10a	発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類(ハ セリ、えご ま(葉)を 除く)

## (13) だいこん

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
亀裂褐変症(リゾトリア菌)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	だいこん
	バリダシン粉剤DL	バリダマイシン粉剤	U18		20kg/10a		収穫7日前まで	株元散布	4回以内	だいこん
黒斑細菌病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
白さび病	ビシロックフロアブル	ビカルブトリアクス水和剤	U17		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	だいこん
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500~1000倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類
	スターナ水和剤	オキソニク酸水和剤	31		1000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	だいこん
	バイクーパー水和剤	非病原性エルビニアカトホーラ水和剤	「-(生)」		500~2000倍	150~300g/10a	発病前~発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
ワッカ症	ビシロックフロアブル	ビカルブトリアクス水和剤	U17		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	だいこん
アオムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫35日前まで	散布	3回以内	だいこん
	プレオフロアブル	ビリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	アブラムシ類	ホルラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~4kg/10a		は種前	作条散布	1回
ジェイエース粒剤		アセフェート粒剤	1B		3~4kg/10a		は種前	作条散布	1回	だいこん
ベネビアOD		シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
マラソン乳剤		マラソン乳剤	1B		1000~3000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	6回以内	だいこん
キスジノミハムシ	フォース粒剤	テフルリン粒剤	3A	劇	4~9kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	だいこん
					6~9kg/10a		は種時	全面土壌混和	1回	だいこん
					6kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	1回	だいこん
コガ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~1500倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	だいこん
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	バダソグ水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	だいこん
	プレオフロアブル	ビリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ネキリムシ類	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時	土壌表面散布 土壌混和处理	1回
デナボン5%ペイト		NAC粒剤	1A		3~6kg/10a		収穫30日前まで	株元散布	4回以内	だいこん
ネキリエースK		イソキサチオン粒剤	1B		3kg/10a		は種時又は定植時	土壌表面株元処理	1回	だいこん
ネグサレセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"[-](I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
	ビレーラム粒剤	フルベラム粒剤	"[-](I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
ネコバセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"[-](I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
	ビレーラム粒剤	フルベラム粒剤	"[-](I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ハイマダラメイガ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	だいこん
	トルネード エースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
ヨトウムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫35日前まで	散布	3回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	マトリックプロアール	クロマフェジト水和剤	18		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	だいこん

## (14) はくさい

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	スターナ水和剤	オキソニック酸水和剤	31		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	ハイキパー水和剤	非病原性エルビニアカトパーズ水和剤	「- (生)」		500～2000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
	バリダシ液剤5	バリダマイシ液剤	U18		500倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	はくさい
根くびれ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		30～40kg/10a		は種又は定植前	作条施用土 壤混和	1回	はくさい
根こぶ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		10g/植穴1穴		は種又は定植前	植穴処理土 壤混和	1回	はくさい
					30～40kg/10a		は種又は定植前	全面施用土 壤混和	1回	はくさい
					30kg/10a		は種又は定植前	作条施用土 壤混和	1回	はくさい
	セージン粉剤	フルスファミド粉剤	36		20～30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	はくさい
					20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混 和	1回	はくさい
	フロンサイト粉剤	フルアジナム粉剤	29		15～20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混 和	1回	はくさい
					30～40kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	はくさい
	ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	はくさい
500倍					セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1 冊(30×60cm、使用 土壌約2.5～7g)当 り2g	定植前日～当日	灌注	1回	はくさい	
白斑病	シゲナムWDG	ビラクストロピン・ホスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ペンレート水和剤	ペニシル水和剤	1		2000～3000倍	100～300mL/m <sup>2</sup>	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
2000～3000倍					100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい	
べと病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
アムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
	ブレイフロアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ブレイソフロアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1 冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	はくさい
	ランネット45DF	メソシル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	はくさい

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アブラムシ類	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ベリマークSC	シアントラニリア ロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはベリマークSC 1 冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
コガ	アタフロン乳剤	クロルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～1500倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	はくさい
	コテツロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	トアロフロアブルCT	BT水和剤	11A		1000～2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	バダソング水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	プレハソング水溶剤5	クロラントラニリア ロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはベリマークSC 1 冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	はくさい
ネキリムシ類	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散 布土壌混和	1回	はくさい
	デナポソ5%ベイト	NAC粒剤	1A		3～6kg/10a		収穫21日前まで	株元散布	3回以内	はくさい
ハイマダラノメイガ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	はくさい
ヨトウムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	コテツロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ハクザップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	はくさい

## (15) 非結球あぶらな科葉菜類

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
白斑病	ベンレート水和剤	ベニミル水和剤	1		4000倍	100～300mL/m <sup>2</sup>	収穫21日前まで	散布	1回	非結球あぶらな科葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)
					4000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	1回	非結球あぶらな科葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)
根こぶ病	オラカル粉剤	アミスターロム粉剤	21		20～30kg/10a		は種前又は定植前	全面土壌混和	2回以内	非結球あぶらな科葉菜類
アムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
アブラムシ類	アルパリン粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
	スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
キスジノミハムシ	アルパリン粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
	スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
	フォース粒剤	フェルトリン粒剤	3A	劇	4kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(からしなを除く)
コガ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く)
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
ハスモンヨトウ	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く)
ヨトウムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		500～1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)

## (16) ほうれんそう

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
苗木枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メアロニル水和剤	7		1000倍	-	は種前	24時間種子浸漬	1回	ほうれんそう
					200倍	-	は種前	1時間種子浸漬	1回	ほうれんそう
					750~1500倍	3%/m <sup>2</sup>	は種時~子葉展開時	土壌灌注	1回	ほうれんそう
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ほうれんそう
べと病	ビシロックフロアブル	ビカルトリン水和剤	U17		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ほうれんそう
	フェステイバル水和剤	ジメトモル水和剤	40		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ほうれんそう
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000~3000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ほうれんそう
シロビノメイガ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
ハスモンヨトウ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
ホレンソウナガコダニ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	4000~6000倍	100~300%/10a	2葉期まで 但し、収穫14日前まで	散布	1回	ほうれんそう
	コテツバイト	クロルフェナビル粒剤	13		3~6kg/10a		は種時~2葉期まで 但し、収穫14日前まで	全面土壌散布	1回	ほうれんそう
マハモグリバエ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
ヨウムシ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300%/10a	収穫21日前まで	散布	1回	ほうれんそう
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ほうれんそう

## ハウレンソウケナガコナダニの総合的防除

ハウレンソウケナガコナダニ（以下「コナダニ」）の防除は、化学農薬の散布が一般的であるが、ハウレンソウに登録のある農薬は少なく、生育後半には使用できないため、農薬散布に代わる耕種的防除技術を導入した総合的防除体系を実践する。

### 1 完熟堆肥の施用

1年以上堆積した完熟堆肥は、施用後のコナダニの生息数の増加を低く抑えることができる。

堆積期間が3ヵ月未満の未熟な堆肥を施用するとコナダニの生息数が増加するので使用しない。（図1）

### 2 品種の選定

開張性の品種は株間の湿度が高くなり、コナダニの生育数が増加する。コナダニの被害発生には、品種間差が大きい。

発芽揃いが良く、草姿が立性の品種を使用すると、被害を低く抑えることができる。（表1）

### 3 水管理による防除

土壌タイプでは、砂壌土の方が水持ちの良い粘質土より被害の発生が多くなる。

コナダニは、土壌が乾燥するとハウレンソウに移動し被害を出す。かん水チューブを2列間隔で下向きに設置し、収穫7日前まで土壌表面だけが湿る程度の少量かん水を続けることによって、コナダニの土壌中からハウレンソウ株への移動を減らし、被害を抑制することができる。（表2）

### 4 播種直前の土壌中のコナダニの生息密度と防除の目安

福井県農業試験場が開発した簡易な土壌中生息密度計測法（※）による生息密度が5頭以上の時、収穫時の被害株率は約10%となり化学農薬による防除が必要である（図2）。播種前の土壌中のコナダニの生息密度を調査することによって、防除の要否を判断することができる。

### 5 化学的防除の効果の向上

殺虫剤を散布する際、機能性展着剤であるアプローチB Iを添加すると土壌中のコナダニの死虫率が高くなり、防除効果が向上する。

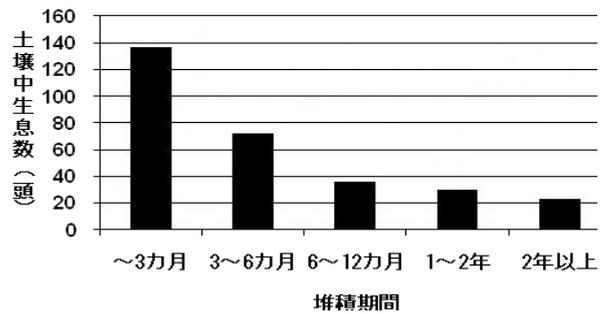


図1 堆肥の堆積期間と施用後のコナダニの生息数

表1 主要品種のコナダニによる被害発生状況

品種名	草姿	は種7日後 発芽率(%)	収穫時の 被害株率 (%)
アクティオン	開張性	37.8	23.0
トリトン	開張性	78.6	14.2
リード	半立性	45.2	20.8
アンナ	半立性	76.4	9.4
ミラージュ	立性	82.4	4.2
トラッド7	立性	86.8	4.4
クロノス	立性	82.0	3.0

表2 土壌タイプおよび灌水方法とコナダニの被害の発生

処理区	土壌中の生息密度 (頭)		収穫時の 被害株率 (%)	収穫時の草丈 (cm)
	は種前	収穫期		
慣行(砂壌土)	19.8	78.0	19.2	28.7
慣行(粘質土)	18.2	39.2	8.0	32.6
かん水多(砂壌土)	18.4	27.6	7.2	33.9
かん水チューブ下向き	19.2	24.8	5.2	31.0

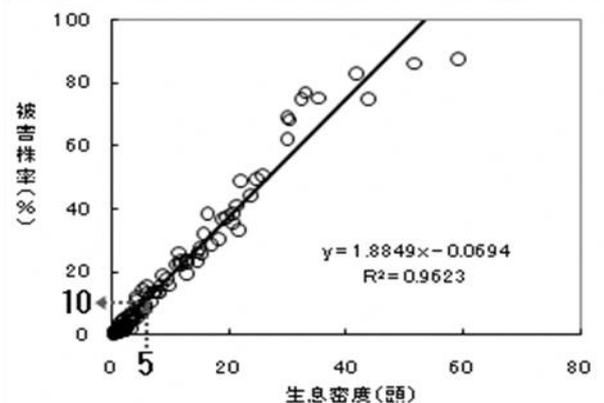


図2 土壌中のコナダニの生息密度と被害の関係

### ※コナダニの簡易な土壌中生息密度計測法

- 土200g<sup>(注1)</sup>を採取し、チャック式ビニール袋に入れ、平らに広げる。
- シール式耐水紙（直径5cmの円形に切り取る）の粘着面に乾燥酵母を均一につけ、酵母面が内側になるように二つに折り（トラップ）、図のように土の上に3枚並べる。
- 新聞紙をかけて室温<sup>(注2)</sup>で3日間静置し、ルーペでトラップの内側に集まったコナダニ頭数を数える。トラップ一枚あたり5頭以上で要防除水準である。

注1 土はビニール袋の内側が少し曇ってくる程度の軽い湿りをもたせる。湿りすぎは×。

注2 室温は20~25℃ 新聞紙は暗くするためにかける。

図



## (17) ねぎ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
萎凋病	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5%) 当り1%	定植前	苗床灌注	1回	ねぎ
					50倍	-	定植直前	5~30分間苗根部浸漬	1回	ねぎ
黒斑病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
さび病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	オンリーワンフロアブル	テブコナゾール水和剤	3		1000倍	150~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジオゼット水和剤	ボリオキシ水和剤	"[-](I*)		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	バレット2070アンプル	ビラジフルミド水和剤	7		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	メジャーフロアブル	ビコキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ラリ水和剤	ミクロタニル水和剤	3		2000倍	150~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
白絹病	アフェットフロアブル	ベンチオビラト水和剤	7		1000~2000倍	1%/m <sup>2</sup>	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	2回以内	ねぎ
					2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	ジオゼット水和剤	ボリオキシ水和剤	"[-](I*)		500倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ディートラックス油剤	メチルイソシアネート・D-D油剤	「-」→ 劇 8A,「-」 → 8F,8A,8F		30~40%/10a		は種又は植付の14日前まで	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12~15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7~14日後にガス抜き作業を行う。	1回	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
モカット粒剤	フルタニル粒剤	7			4~6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	4回以内	ねぎ	
モカリット粒剤	シメコナゾール粒剤	3			4~6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫14日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ	
軟腐病	オリゼート粒剤	ブローナゾール粒剤	P2			6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	2回以内	ねぎ
	ヨネブ水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ
葉枯病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	ブローズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
べと病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ビシロックフロアブル	ビカルブトキサ水和剤	U17		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	鱗茎類
	ブローズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
リドミルゴールドMZ	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
アザミヤカ類	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテラン水溶剤	4A		1000倍	1% <sup>2</sup> /m <sup>2</sup>	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
					2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
					400倍	0.4% <sup>2</sup> /m <sup>2</sup>	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
					50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ハ-ポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5~4.0% <sup>2</sup> )当り0.5% <sup>2</sup>	定植前日~定植時	灌注	1回	ねぎ	
	アベンジヤーフロアブル	フロメキン水和剤	34	劇	1000~2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	ファインセーブフロアブル	フルキサミド 乳剤	30		2000~3000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	スターク顆粒水溶剤	ジノテラン水溶剤	4A			1000倍	1% <sup>2</sup> /m <sup>2</sup>	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
						2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
						400倍	0.4% <sup>2</sup> /m <sup>2</sup>	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
						50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ハ-ポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5~4.0% <sup>2</sup> )当り0.5% <sup>2</sup>	定植前日~定植時	灌注	1回	ねぎ
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		700~1000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ	
	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
ベネビアOD	シアントラニア ロール水和剤	28		2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ		
ベリマークSC	シアントラニア ロール水和剤	28			2000倍	0.5% <sup>2</sup> /m <sup>2</sup>	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ハ-ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4% <sup>2</sup> )当り0.5% <sup>2</sup>	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ	
ヨイモシヨク	アグロスリン乳剤	シベルトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	ねぎ	
	ブレバソフロアブル5	クロラントラニア ロール水和剤	28		2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
	ベリマークSC	シアントラニア ロール水和剤	28			2000倍	0.5% <sup>2</sup> /m <sup>2</sup>	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
400倍						セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ハ-ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4% <sup>2</sup> )当り0.5% <sup>2</sup>	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ	
タネバエ	ダライゾン粒剤3	ダライゾン粒剤	1B		5~8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	ねぎ	
ネギアザミヤカ	アベール粒剤	アセタミプリド・シアントラニア ロール粒剤	28,4A			セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ハ-ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4% <sup>2</sup> )当り40g	育苗期後半~定植当日	株元散布	1回	ねぎ	
	ウララDF	フロニカミド 水和剤	29		1000~2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ	
	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキサゾール水和剤	9B		2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ	
	リーファード 顆粒水和剤	チオスクラム水和剤	14	劇	1500倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
ネギコガ	グレース乳剤	フルキサミド 乳剤	30		2000~3000倍	100~300% <sup>2</sup> /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
ネギハダグリバエ	アベール粒剤	アセチアリド・シアンラニリアール 粒剤	28,4A		セル成型育苗トレイ1箱またはハダグリバエポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り40g		育苗期後半~定植当日	株元散布	1回	ねぎ	
	アベンジャーフロアブル ファインセーブフロアブル	フロメキン水和剤	34	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
	コテツフロアブル	クロルフェナヒル水和剤	13	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	鱗茎類 (にら、にら(花茎)を除く)	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ	
	リフガード顆粒水和剤	チオシトラム水和剤	14	劇	1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
ネギニ類	アブロードフロアブル	アブロフェジン水和剤	16		500~1000倍	1~3%/㎡	収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
	ラグビーマC粒剤	カスサホスマイクロコプセル剤	1B		20kg/10a		定植前	全面処理土壌混和	1回	ねぎ	
ハダグリバエ類	グレース乳剤	フルキサミド乳剤	30		2000~3000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	ブリンソ粒剤オメガ	シアンラニリアール粒剤	28		6kg/10a		収穫前日まで	株元散布	3回以内	ねぎ	
	ベリマークSC	シアンラニリアール水和剤	28		2000倍	0.5%/㎡	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハダグリバエポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り0.5%	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ	
	ミネクトデュオ粒剤	シアンラニリアール・チアメキサム粒剤	28,4A		6kg/10a		収穫3日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ	
					6kg/10a		定植時	作条散布	1回	ねぎ	
					6kg/10a		定植時	植溝土壌混和	1回	ねぎ	
	ヨハールフロアブル	テトラニリアール水和剤	28		200倍		セル成型育苗トレイ1箱またはハダグリバエポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り0.5%	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ
					2500~5000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
					25倍	1.6%/10a	収穫3日前まで	無人航空機による散布	3回以内	ねぎ	
展着剤	ドライバー	展着剤			2~10mL/散布液 10%(1000~5000倍)		添加		野菜類		

# 新しい病気ネギ褐色腐敗病の防除対策

## 1 はじめに

ネギは本県の水田園芸の基幹作物ですが、最近、褐色腐敗病が問題となっています。本病は葉鞘軟白部に褐色の条斑が発生する病気で、品質低下だけでなく、収量も低くなります(図1)。高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に雨が続く時に、ヨネポン水和剤で軟腐病を防除すると本病も少なくなります。しかし、本病での登録はありません。そこで、耕種的な防除法を紹介します。



図1 軟白部褐色条斑症状

## 2 作型

本病は高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に多発生するので(図2)、10月上旬までに収穫する作型では被害が問題となります。

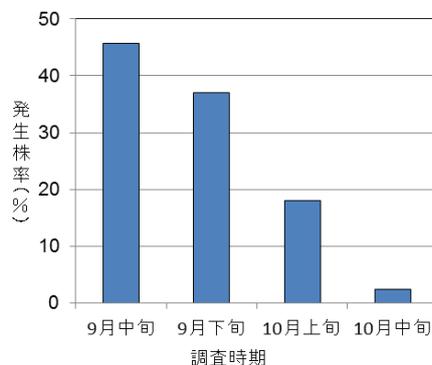


図2 褐色腐敗病の発生時期

## 3 品種

発生が心配される圃場では、夏扇パワー、夏の宝山の品種を植付けると発生を少なくすることができます(図3)。

## 4 消石灰とオオムギ緑肥施用

消石灰とオオムギ緑肥を土壤に混和すると病原菌密度が低くなる傾向があります。5月下旬にネギの条間にオオムギを播種すると、7月上旬には生育が旺盛となり、8月上旬には枯上がりします。8月上旬にオオムギを刈取り、消石灰を200 kg/10a施用し、8月中旬に同時にすき込むと、発病株率は7%と無処理区の約半分にすることができます。可販収量もわずかに増加します。また、消石灰の単独施用でも発病株率は8.2%と無処理より発生が少なくなります(表1)。

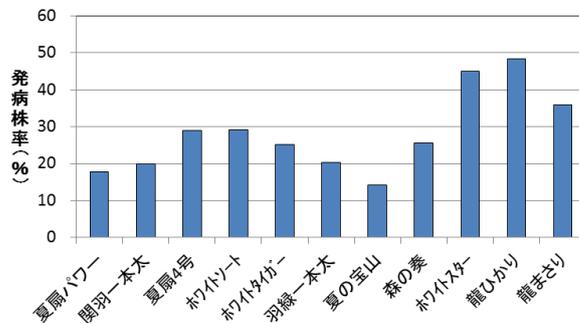


図3 各品種におけるネギ褐色腐敗病発生状況

ネギ褐色腐敗病の防除は作型、品種、消石灰およびオオムギ緑肥を組み合わせることによって総合的な対策が必要です。また、オオムギは天敵を保護するバンカープランツとしての効果が期待されます。

表1 消石灰とオオムギ緑肥による褐色腐敗病防除効果

処理	調査株数	発病株率(%)	収穫量(kg/10a)	比率	可販収量(kg/10a)	比率
消石灰	561	8.2	2845	100	2097	100
オオムギ緑肥	532	8.5	2947	104	2178	104
消石灰+オオムギ緑肥	557	7.0	2920	103	2128	102
無処理	558	15.6	2831	100	2092	100

## (18) たまねぎ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
白色疫病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
	ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアバ リカルブ イソプロピル水和剤	27,40		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
	リドミルコート MZ	マンゼ プ ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
べと病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
	ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアバ リカルブ イソプロピル水和剤	27,40		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
	リドミルコート MZ	マンゼ プ ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
灰色かび病	スプレックス水和剤	ブロンジト ン水和剤	2		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	たまねぎ
					16倍	2.4 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	無人航空機による散布	5回以内	たまねぎ
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	6回以内	たまねぎ
	ロブラル水和剤	イブロン水和剤	2		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
軟腐病	ヨネホ ン水和剤	ノルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
アザミウマ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		700～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	たまねぎ
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド 水溶剤	4A	劇	2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
タネバエ	ダ イジ ン粒剤3	ダ イジ ン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	たまねぎ
タネキバエ	ダ イジ ン粒剤3	ダ イジ ン粒剤	1B		3～5kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	たまねぎ
ネギアザミウマ	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	たまねぎ

## (19) らっきょう

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
乾腐病	ディートベックス油剤	メチルイソシアネート・D-D油剤	「-」→ 8A, 「-」 → 8F, 8A, 8 F	劇	30~40%/10a		は種又は植付の21 日前まで	圃場を耕起・整地 した後、所定量を 深さ約12~15cm に注入し、直ちに 覆土・鎮圧する。 薬剤処理7~14日 後にガス抜き作業 を行う。	1回	らっきょう
	トリアミン水和剤	トリアルミゾール水和剤	3		50倍	-	植付前	5~30分間種球浸 漬	1回	らっきょう
	ベントレート水和剤20	チウム・ベノミル水和剤	1, M3		200倍	-	植付前	30分間種球浸漬	1回	らっきょう
	ベントレート水和剤	ベノミル水和剤	1		500倍	-	植付直前	30分間種球浸漬	1回	らっきょう
白色疫病	フォリオコート	メタキシルM・TPN水和剤	4, M5		1000倍	100~400%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	らっきょう
	フロンサイト水和剤	フルアジナム水和剤	29		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	らっきょう
	ベントファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベノチアハリカルブイソプロピル水和剤	27, 40		2000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	らっきょう
さび病	アミスター207ロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	らっきょう
灰色かび病	フロンサイト水和剤	フルアジナム水和剤	29		2000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	らっきょう
	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100~300%/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	らっきょう
ネマニ	ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート粒剤	1B		15kg/10a		植付前	植溝土壌混和	1回	らっきょう
ネマニ類	トクチオン細粒剤F	プロチオホス粉粒剤	1B		6kg/10a		定植時	植溝土壌混和	1回	らっきょう
	フォース粒剤	テフルトリン粒剤	3A	劇	6~9kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	1回	らっきょう
					9kg/10a		定植前	植溝土壌混和	1回	らっきょう
					9kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回	らっきょう

## (20) にんにく

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
さび病	アミスター2070アブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんにく
	シグナムWDG	ピラクlostロビン・ホスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	にんにく
	ストロビー70アブル	クレスキシムメチル水和剤	11		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんにく
葉枯病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100~300g/10a	-	散布	-	にんにく
春腐病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	6回以内	にんにく

## (21) レタス・非結球レタス

## レタス

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
菌核病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
	スミレックス水和剤	ブロシメドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	レタス
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
					1500倍	1.5 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	収穫45日前まで	灌漑	1回	レタス
	ベンレート水和剤	ベンザル水和剤	1		2000～3000倍	100～300mL/m <sup>2</sup>	収穫14日前まで	散布	4回以内	レタス
					2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	レタス
ロブテール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス	
黒腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類
すそ枯病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	レタス
	フロンサイト粉剤	フルアジナム粉剤	29		30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混和	1回	レタス
軟腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類
灰色かび病	スミレックス水和剤	ブロシメドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	レタス
	ロブテール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス
腐敗病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	レタス
べと病	タコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス
材カガ	ベリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または $\mu$ - $\mu$ - $\mu$ ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\mu$ g)当り0.5 $\mu$ g	育苗期後半～定植当日	灌漑	1回	レタス
ネキリン類	カルボス微粒剤F	イキサチオン粉粒剤	1B	劇	6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和	2回以内	レタス
	カルボス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和	2回以内	レタス
	タミアジノン粒剤3	タミアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	レタス
ハモンゾウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	レタス
	ベリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または $\mu$ - $\mu$ - $\mu$ ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\mu$ g)当り0.5 $\mu$ g	育苗期後半～定植当日	灌漑	1回	レタス
ヨウムシ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	レタス

## 非結球レタス

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒腐病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
軟腐病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
腐敗病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	非結球レタス
ネキリン類	タミアジノン粒剤5	タミアジノン粒剤	1B		6kg/10a		は種時又は定植時	全面土壌混和又は作条土壌混和	2回以内	非結球レタス

## (22) にんじん

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒葉枯病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300g/10a	-	散布	-	にんじん
	コサイドボルドー	銅水和剤	M1		1000倍		-	散布	-	にんじん
	シグナムWDG	ビラクトロピン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	にんじん
	ポリオキシAL水和剤	ポリオキシ水和剤	"[-] (I*)		500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	にんじん
軟腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
	スターナ水和剤	オキソニック酸水和剤	31		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんじん
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	にんじん
キアゲハ	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	にんじん
ネグサレセンチュウ	ネマキック粒剤	イミダホス粒剤	1B			10～15kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ビラム粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
ネコブセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ビラム粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
ハスモンヨトウ	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	にんじん
ヒョウタンクウムシ類	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
ヨトウムシ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	にんじん
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類 (キャベツ、はくさいを除く)
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	にんじん

## (23) 未成熟そらまめ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
赤色斑点病	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
輪紋病	ジマンダイオン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
アブラムシ類	アディオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	未成熟そらまめ

## (24) えだまめ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
茎疫病	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
黒根腐病	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
紫斑病	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
苗木枯病(ヒシム菌)	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
アラムン類	クルザ-FS30	チアマトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
カムン類	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ
	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
タイズサキマバエ	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
タネバエ	クルザ-FS30	チアマトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
ネリムン類	クルザ-FS30	チアマトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
ワズジヒメムシ	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ
	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		3000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
	クルザ-FS30	チアマトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアマトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		3000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
マシクイガ	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ

## (25) どうもろこし

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アブラムシ類	アゲロシン乳剤	シハルメトリン乳剤	3A	劇	1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	どうもろこし
	アゲイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000~3000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
アノメカ	アゲロシン乳剤	シハルメトリン乳剤	3A	劇	1000~2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	どうもろこし
	アゲイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
	ベネビアOD	シアントラニリア ロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	未成熟どうもろこし
アヲトウ	トレボロン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100~300 $\mu$ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
ネキリムシ類	ガードベイトA	ヘルメトリン粒剤	3A		3kg/10a		生育初期	株元散布	4回以内	どうもろこし

## (26) ばれいしょ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		500～1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	ばれいしょ
	フロンサイト水和剤	フルアジナム水和剤	29		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
					500倍	25g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
					800倍	40g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
黒あざ病	バリダシ粉剤DL	バリダマシ粉剤	U18		種いも重量の0.3%		植付前	種いも粉衣	1回	ばれいしょ
	リゾレックス水和剤	トルクロスメチル水和剤	14		50～100倍	-	貯蔵前又は植付け前	種いも浸漬(10分以内)	1回	ばれいしょ
そうか病	アタキソ水和剤	ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤	1,25		40～60倍	-	植付前	5～10秒間種いも浸漬	1回	ばれいしょ
					40倍	種いも100kg当たり2.5～3g	植付前	種いも散布	1回	ばれいしょ
	フロンサイト粉剤	フルアジナム粉剤	29		30～40kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	ばれいしょ
軟腐病	アグリマシソ-100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	25,41		1000～1600倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	ばれいしょ
アラムン類	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
	カルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		植付時	作条散布	1回	ばれいしょ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a		植付時	作条散布	1回	ばれいしょ
けり	ダアジノン粒剤3	ダアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付前	土壌混和	1回	ばれいしょ
テントウムシダマシ幼虫	カルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ばれいしょ
テントウムシダマシ類	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
ネリムシ類	ダアジノン粒剤3	ダアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付前	土壌混和	1回	ばれいしょ

## (27) かんしょ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ベンレート水和剤20	チラム・ベンミル水和剤	1,M3		200倍	-	植付前	30分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
					20倍	-	植付前	1分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
	ベンレート水和剤	ベンミル水和剤	1		500～1000倍	-	植付前	20～30分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
					種いも重の0.4%	-	植付前	種いも粉衣	1回	かんしょ
アブラムシ類	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
コガネムシ類幼虫	ダイアジノ粒剤3	ダイアジノ粒剤	1B			5～10kg/10a	作付前及び収穫30日前まで	土壌混和	3回以内	かんしょ
ナガシロシバ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
ハスモンヨトウ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
ハリガネムシ類	フォース粒剤	テフルリン粒剤	3A	劇		9kg/10a	植付前	全面土壌混和又は作条土壌混和	1回	かんしょ

## (28) さといも

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	アミスター20フロアブル	アゾキストロピン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	さといも
	カンパネラ水和剤	ベンチアザリカルブイソプロピル・マン	"UN(1*),4		1000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	さといも
	ベネット水和剤	ゼブ水和剤	0							
	ジーフライン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150~500%/10a	収穫前日まで	散布	-	さといも
	ダイモ顆粒水和剤	アミスルフロム・シモキサニル水和剤	21,27		2000倍	100~300%/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	さといも
	ビシロックフロアブル	ピカルトトラゾクス水和剤	U17		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	さといも
ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	さといも	
黒斑病	ベントレート水和剤20	チウラム・ベノミル水和剤	1,M3		20倍	-	植付前	1分間種いも浸漬	1回	さといも
					種いも重量の0.4~0.5%	植付前	種いも粉衣	1回	さといも	
アブラムシ類	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		4kg/10a		植付時	植溝土壌混和	1回	さといも
					4kg/10a	植付時	植溝土壌混和	1回	さといも(葉柄)	
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	さといも
カンザワハダニ	ピラニカEW	テラフェンピラト乳剤	"21A(1*)	劇	2000倍	150~300%/10a	収穫前日まで	散布	1回	さといも
ハモシトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	さといも
	エルサン粉剤2	PAP粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	1回	さといも
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100~300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トレボン乳剤	イトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	さといも
					1000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	さといも(葉柄)
ブレオフロアブル	ピリタリル水和剤	UN		1000~2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	さといも	
ブレバソフロアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	さといも	
ハダニ類	マイトコーネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	20D		1000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	1回	さといも
ネグサレセンチュウ	ネマキック粒剤	イミシアホス粒剤	1B		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも
	ネマクリーン粒剤	フルピラム粒剤	"[-](1*)		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも
	ピラム粒剤	フルピラム粒剤	"[-](1*)		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも

## (29) やまのいも

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
青かび病	ベルコートフロアブル	イミダジニアルベシル酸塩水和剤	M7		200倍	-	植付前	1～10分間種 いも浸漬	1回	やまのい も
炭疽病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	やまのい も
	ダ コニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫30日前まで	散布	6回以内	やまのい も
葉洗病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	やまのい も
	ダ コニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫30日前まで	散布	6回以内	やまのい も
アブラムシ類	トレボ ン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	やまのい も
ヤマノイモガ	トレボ ン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	やまのい も

## (30) 野菜類

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	イオフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちごを除く)
	インプレッションクリア	バチルス・アミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグリーン	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ジーフライン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	ハモメイト水溶液	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800～1000倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレックス水和剤	BM2		1000倍	150～300 $\mu$ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
サンクス乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」	「-」	300～600倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)	
					15g/10a/日	発病前～発病初期	夕外内投入	-	野菜類(トマトを除く)	
褐斑細菌病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類
黒斑細菌病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類
黒腐病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類
さび病	カリグリーン	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ハモメイト水溶液	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
白さび病	ジーフライン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
軟腐病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類
	ジーフライン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	バイオキパー水和剤	非病原性エルビニア・カトパーラ水和剤	「-(生)」		500～2000倍	150～300 $\mu$ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
灰色かび病	インプレッションクリア	バチルス・アミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグリーン	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ハモメイト水溶液	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレックス水和剤	BM2		1000倍	150～300 $\mu$ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
300g/10a						6～10 $\mu$ g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
10～15g/10a/日						発病前～発病初期	夕外内投入	-	野菜類(トマトを除く)	
斑点細菌病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類
べと病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
ビショム・リゾグロニウムによる病害(苗立枯病等)	オーソサイト水和剤80	キャブタン水和剤	M04		種子重量の0.2～0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	野菜類(いも類を除く)

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
リゾトリア菌による病害(苗立枯病等)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		乾燥種子重量の0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	野菜類	
	アムシ	エスマルクDF	BT水和剤	11A	1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
		トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A	1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
アブラムシ類	エコビータ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
		サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」	300倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
		粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」	100倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
オオカガ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
コガ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
		トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A	1000～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
コナジラミ類	エコビータ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100～200倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
		サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」	300倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
		ラノーターブ	ヒリブロキシフェン剤	7C		10～50 $\mu$ m <sup>2</sup> /10a	栽培期間中		作物体の付近に設置する。	1回	野菜類(施設栽培)
		粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」	100倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
シイタケヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
ハスモンヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
ハダニ類	エコビータ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
		サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」	300～600倍	150～500 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
		粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」	100倍	150～300 $\mu$ g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
ヨウムシ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
		トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A	500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)

## < 参考 1 > 土壌病害虫

(殺菌剤)

薬剤名	適用 病害虫名	な	ビ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	薬	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	え	ス	ば	か	や	さ
		す	ン	ト	ニ	ゆ	い	ロ	ぼ	ち	ヤ	ロ	ッ	く	い	こ	ぶ	結	う	ま	っ	ん	タ	ん	成	だ	イ	れ	ん	ま	と
オーソサイド水和剤80	苗立枯病	○	○	○	○	○	○	○	○				○							○											
タチガレン液剤	立枯病																								○						
	苗立枯病				○	○	○																								
タチガレン粉剤	苗立枯病					○																									
	立枯病																							○							
ダコソイル	根こぶ病										○	○	○	○	○																
	根くびれ病												○	○																	
ネビジン粉剤	根こぶ病										○	○	○	○	○	○															
	そうか病																											○			
	粉状そうか病																											○			
	菌核病											○												○							
バシタック水和剤75	黒あざ病																														
	苗立枯病 (リゾクシア菌)			○	○	○	○							○																	
	亀裂褐変症 (リゾクシア菌)													○																	
フロンサイド粉剤	根こぶ病										○	○	○			○	○														
	そうか病																												○		
	粉状そうか病																														
	白絹病 小菌核腐敗病																							○							
ランマンフロアブル	根こぶ病										○	○	○		○																
オラクル粉剤	根こぶ病										○	○	○		○	○															
	粉状そうか病																												○		
オラクル顆粒水和剤	根こぶ病										○	○	○		○	○															
	粉状そうか病																												○		

## (殺虫剤)

薬剤名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	薬	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	エ	ス	ば	か	や	さ
		す	マ	マ	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	リ	イ	ン	ぶ	類	科	う	ぎ	ぎ	う	く	ス	ん	め	メ	ン	よ	よ	も	も
ダイアジノン粒剤3	コガネムシ類 幼虫	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○			○							○	
	ケネキリムシ類	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○						○	ケラ		○						○	○	
	タネバエ					○	○	○	○					○					○	○											
	ウリハムシ幼虫					○	○	○	○																						
	コオロギ																				○										
	タマネギバエ																				○										
デナボン5%ペイト	ネキリムシ類										○	○	○																		
	コオロギ ダンゴムシ										○	○																			
ネキリエースK	コオロギ類							○				○																			
	ネキリムシ類										○	○	○	○	○				○				○	○	○						○
カルホス粉剤	ネキリムシ類	○		○	○	○					○	○	○						○				○		○						
	タネバエ					○							○						○						○						
	コガネムシ類 幼虫										○																				
カルホス微粒剤F	ネキリムシ類						○	○	○	○	○	○							○				○		○						
	タネバエ																		○						○						
	コガネムシ類 幼虫										○																				
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○				○											○				○	○	○	
	ネグサレセンチュウ									○			○								○			○					○	○	○
	ジャガイモシストセン チュウ																											○			
	ネダニ																					○									
バイデートL粒剤	ジャガイモシストセン チュウ																											○			
	ネコブセンチュウ		○	○	○	○	○	○					○											○	○				○	○	
	ネグサレセンチュウ			○	○	○	○						○											○	○				○		
ネマキック粒剤	ネグサレセンチュウ									○	○		○	○										○	○			○	○	○	○
	ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○					○						○					○				○	○		
	ジャガイモシストセン チュウ																											○			



(殺菌・殺虫剤)

薬剤名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	あ	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	豆	と	ば	か	や	さ	
		す	ン	ト	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	イ	ン	ブ	ダ	カ	キャベツ、こまつなを除く	ウ	ギ	ギ	ウ	ク	ス	ン	め	類	う	れ	ん	ま	と
クロールピクリン	苗立枯病	○		○	○	○	○	○									○	○	○												
	疫病	○	○	○	○	○	○	○	○										○												○
	青枯病	○	○	○	○																							○			
	根腐病																	○					○								○
	萎凋病		○	○	○													○	○												
	萎黄病										○	○	○	○	○	○	○														
	白絹病					○	○	○	○	○									○						○	○	○				
	つる割病					○	○	○	○	○																			○		
	立枯病																								○	○			○		
	半身萎凋病	○		○	○																										
	根こぶ病											○				○															
	紋羽病																								○				○		
	しみ腐病																								○						
	こぶ病																														
	黒点根腐病								○																						
	褐色腐敗病																														○
	炭疽病										○																				
	黄化病																														
	根くびれ病													○																	
	軟腐病																														
	株腐病																								○						
	そうか病																												○		
	亀裂褐変症														○																
ケネキリムシ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ハリガネムシ類																															
センチュウ類																															
フザリウム立枯病									○																						
ビッグベイン病																							○								
ハウレンソウケナガコナダニ																							○								



(殺菌・殺虫剤)

薬剤名	適用病害虫名	な	ビ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	葉	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	え	ス	ば	か	や	さ	
		す	マ	ト	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	リ	ン	ブ	コ	コ	類	球	う	ま	ま	ま	ま	タ	ん	そ	だ	ト	れ	ん	ま	と
ソイリーン	つる割病				○	○	○																									
	青枯病	○	○	○	○																							○				
	えそ斑点病							○																								
	黒点根腐病						○	○																								
	立枯病								○																				○			
	黄化病												○																			
	根くびれ病												○																			
	パーティシウム黒点病													○																		
	しみ腐病																								○							
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)											○																				
	白絹病																		○													
	そうか病																												○			
	炭疽病										○																					
	根腐病 褐色腐敗病																														○	
	萎凋病			○	○														○													
	萎黄病										○																					
ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
D-D テロン	青枯病																															
	そうか病																												○			
	ジャガイモシストセンチュウ ジャガイモシロ シストセンチュウ																															
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	コガネムシ類幼虫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	キルパー	萎黄病									○					○																
		黒点根腐病							○																							
		乾腐病																		○		○										○
		萎凋病	○	○	○														○													
		しみ腐病																								○						
		つる割病					○	○																						○		
		白絹病																		○					○							
		すそ枯病 ビッグベイン病																							○							
		立枯病								○										○												
そうか病																													○			
根腐病																								○							○	
根腐萎凋病																			○													
株腐病																			○													
根くびれ病														○																		
根こぶ病												○	○	○																		
半身萎凋病		○	○	○	○																											
半枯病		○																														
苗立枯病 (リゾクトニア菌)	○	○			○														○													
ネグサレセンチュウ										○			○										○									
ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○				○												○					○	○			

## ① 焼土による土壤消毒法

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
各種病害虫	床土消毒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼土 70°Cで10分間</li> <li>・作り方 鉄板上に砕土した床土を約20cmの高さに盛り、かん水して水分を飽和状態にする。この上にぬれたむしろを覆い下から加熱する。約50分間で温度が得られ、その後は、上の土が中央になるように積みあげて、温度を保つようにする。</li> </ul>

## ② 太陽熱利用による土壤消毒法（ハウス内土壤病害虫）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【イチゴ】萎黄病 【ナス】半身萎凋病、半枯病 【キュウリ】つる割病 【ホウレンソウ】立枯病、センチュウ類（雑草種子）	7 月 下 旬 ～ 8 月 中 旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理方法               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 7月中～下旬に、稲わらなどの粗大有機物を1~2kg/m<sup>2</sup>施用する。</li> <li>② 石灰窒素0.1kg/m<sup>2</sup>施用する。</li> <li>③ 耕耘機でわらをなるべく深くすき込み、畦立てを行う。畦巾60~70 cm、高さ30 cmとして土の表面積を大きくし、太陽熱が深層に伝わりやすくする。</li> <li>④ ビニールで完全に被覆し、土の表面を密閉したのちハウスも密閉する。</li> <li>⑤ 直ちに畦間に水を入れ、全体を湿潤にして、そのまま放置する。</li> </ol> </li> <li>・留意点               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 精密機器、塩ビパイプ、石油類などは、処理期間中ハウス外に出しておく。</li> <li>② 本法は、TMV、青枯病に対しては効果が劣る。</li> </ol> </li> </ul>

## ③ 土壤還元消毒法（太陽熱と水とフスマまたは米糠などの有機物を用いた防除法）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【スイカ】急性萎凋病 【ホウレンソウ】萎凋病、ケナガコナダニ 【ネギ】根腐萎凋病 【イチゴ】萎黄病 【トマト】ネコブセンチュウ、根腐萎凋病、褐色根腐病、萎凋病など	平均気温 20 °C 以上  (6月～9月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備するもの フスマまたは米糠1kg/m<sup>2</sup>以上、透明マルチ、かん水チューブ、水100ℓ/m<sup>2</sup>以上</li> <li>・処理方法               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 残さを除去する。土壤が乾いている場合は2～3日前までに深耕し、かん水しておく。</li> <li>② 消毒は晴天が続く日を選ぶ。</li> <li>③ フスマまたは米糠を1kg/m<sup>2</sup>均一に散布する。</li> <li>④ 散布後すぐに、土壤とフスマを深さ15~20cmに混和し、均平にする。</li> <li>⑤ かん水チューブを約60cm間隔で均一に配置し、透明なシートを全面に敷く。</li> <li>⑥ 100ℓ/m<sup>2</sup>以上均一にかん水する。</li> <li>⑦ ハウスを密閉する。</li> <li>⑧ 2～3日するとドブ臭がする。</li> <li>⑨ 地温30°C以上を20日間保つ。または、外気の最高気温30°C以上の日が7日以上あれば土壤消毒は完了する。</li> <li>⑩ ハウスを開放し、シートを除去する。数日間土壤を乾燥させ、乾いたら、改良資材・基肥を施用し、耕起、畦立て、作付けする。</li> </ol> </li> <li>・留意点               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 消毒後は深耕せず、土壤攪拌は最小限にする。</li> <li>② 消毒によってアンモニア態窒素、硝酸態窒素が増加するので、施肥前に土壤中の無機態窒素量を測定して、施肥量を決める。</li> </ol> </li> </ul>

## ④ 熱水土壤消毒（圃場に熱水を注入して滅菌する効果の安定的した土壤消毒法）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【ホウレンソウ】萎凋病 【ダイコン】萎黄病、ネグサレセンチュウ 【ハクサイ】根こぶ病 【イチゴ】ネグサレセンチュウ 【トマト】青枯病、萎凋病、褐色根腐病、根腐萎凋病、ネコブセンチュウ 【スイカ・メロン】黒点根腐病、つる割病 ネコブセンチュウ 【ダイズ】黒根腐病、シストセンチュウ	厳寒期を除き 通 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備するもの 熱水土壤消毒装置、A重油または灯油、200V三相電源、水100ℓ/m<sup>2</sup>以上、ビニールマルチ、かん水チューブ</li> <li>・処理方法               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 残さを除去する。できるだけ深くまで耕起し、均平にする。</li> <li>② かん水チューブを25~40cm間隔で設置し、ビニールマルチまたは耐熱シートをする。</li> <li>③ 熱水土壤消毒装置を設置する。</li> <li>④ 80~95°Cの熱水を注入する。注入量は深さ20cmまで消毒する場合には100ℓ/m<sup>2</sup>、30cmまで消毒する場合には150ℓ/m<sup>2</sup>、40cmまで消毒する場合には200ℓ/m<sup>2</sup>、ホウレンソウの不耕起栽培では60ℓ/m<sup>2</sup>とする。</li> <li>⑤ 翌日にはビニールマルチやシートを除去できる。</li> <li>⑥ 数日間土壤を乾燥させ、乾いたら、改良資材・基肥を施用し、耕起、畦立て、作付けする。</li> </ol> </li> <li>・留意点               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 透水性を良くするために普段から土づくりをしておく。</li> <li>② 消毒後は深耕せず、土壤攪拌は最小限にする。</li> <li>③ 消毒によってアンモニア態窒素、硝酸態窒素が増加するので、施肥前に土壤中の無機態窒素量を測定して、施肥量を決める。</li> </ol> </li> </ul>

表1 処理温度と加温時間が病原菌の生存に及ぼす影響 (1996・福井園試)

◎：生存 ●：死滅

供試菌	処理温度	被加温時間 (h r.)										
		12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132
株腐病菌 <i>R.solani</i>	25°C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	40°C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	45°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
萎凋病菌 <i>F.oxysporum</i>	25°C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	40°C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	45°C	◎	◎	●	◎	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
立枯病菌 <i>P.ultimum</i>	25°C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	40°C	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	●
	45°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
立枯病菌 <i>P.aphanidermatum</i>	25°C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	40°C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	45°C	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

1) 各処理温度で12時間、残りの12時間は15°Cの変温処理とした。(25°Cは終日)

## ⑤ 低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒法

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【イチゴ】 萎黄病、炭疽病 【トマト】 褐色根腐病 【ハウレンソウ】 萎凋病 【ウリ科野菜】 ホモブシス根腐病 【キュウリ】 ネコブセンチュウ	7 月 下 旬 ～ 8 月 中 旬  地 下 20 cm の 平 均 気 温 が 30 °C を 超 え る こ と	<p>・ 処理方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 土壌はできるだけ細かくし、圃場は均平にしておく。</li> <li>② フィルムを土壌に密閉させるため、処理前に除草しておく。</li> <li>③ 散水チューブを設置し、十分かつ均一に散布できることを確認する。</li> <li>④ ハウス内を密閉して定期的に散水する(土壌が湿っている方が深くまで地温が上がる)。</li> <li>⑤ 処理数日前に散水するとエタノールが均一に浸透し、消毒ムラが少なくなって、効果が安定する。</li> <li>⑥ 希釈用大型タンク500ℓを準備し、土壌還元消毒用エタノールを50～200倍に希釈する。</li> <li>⑦ 対象病害に応じた希釈水を準備する(表2参照)。</li> <li>⑧ 散水チューブは、散布口の数が多の方が均一に短時間で処理できる。土壌全体が均等に湿るように散水口の向きを調整する。</li> <li>⑨ 土壌を一定期間湛水または湿潤状態に維持するため、透明フィルムで散水チューブごと被覆する。</li> <li>⑩ 地温が高いほど効果が高まるため、土壌はフィルムで密閉し、ハウス内は気密性を高め</li> <li>⑪ 2～3週間はそのままの状態を保つ。</li> <li>⑫ 土壌還元が進むと、エタノール消毒特有の発酵臭がする。</li> <li>⑬ 還元処理終了後、透明フィルムを取り外す。</li> <li>⑭ 圃場の耕起を行う。ただし、事前に再び病害虫等に汚染されないようにトラクタのタイヤ、耕起部、胴体を洗浄しておく。</li> <li>⑮ 通常の土壌水分や土壌温度、還元状態が元に戻れば、作付けする。(は種等までに、1週間以上の期間をあける。)</li> </ol> <p>・ 留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 水はけが良すぎる土壌での利用は避ける。</li> <li>② 土壌の還元状態は、ジピリジル反応や酸化還元電位(Eh)の測定で確認する。</li> <li>③ 土壌や処理後の環境条件によっては、消毒の程度が十分でないことがあるので、事前に試してから実施するか、事前に経験者に相談してから実施する。</li> </ol>

表2 低濃度アルコール消毒の濃度と施用量

作物	対象病害虫名	エタノール濃度	1m <sup>2</sup> あたり液量 <sup>1)</sup>
イチゴ <sup>2)</sup>	萎黄病・炭疽病	0.5～2.0%	100ℓ
トマト	褐色根腐病	0.75%	200ℓ
ハウレンソウ	萎凋病	0.5～1.0%	100～200ℓ
ウリ科野菜 <sup>3)</sup>	ホモブシス根腐病	1.0～2.0% <sup>4)</sup>	100～200ℓ
キュウリ	ネコブセンチュウ	0.5～1.0%	100～200ℓ

(参照) 低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒技術 実施マニュアル(農業環境科学研究所HP)

<https://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/techdoc/ethanol/#manual2>

- 1) 砂地(ある程度水持ちがあること)では少ない液量でよい。また、液量が多いほど土壌深くまで還元による消毒効果が現れるので、作物の根域の深さや病害の種類に応じて液量を調整する。
- 2) 栽培方法により、処理濃度が異なる。
- 3) カボチャ、キュウリ、スイカ、メロンなど。
- 4) 地温が低いほど高濃度が必要。

## 〈参考2〉 ウイルス病

## 野菜のウイルス病と伝染方法

野菜名	病名	病原ウイルス	伝染方法					
			汁液	接触	土壌	種子・種イモ・種球	アブラムシ類	他媒介虫等
なす	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
ピーマン	モザイク病	PMMoV (トウガラシ微斑ウイルス)	○	○	○	○		
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
トマト	モザイク病	ToMV (トマトモザイクウイルス)	○	○	○	○		
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	○			○	
		PVX (ジャガイモXウイルス)	○	○				
	黄化えそ病	TSWV (トマト黄化えそウイルス)	○					アザミウマ類
	黄化葉巻病	TYLCV (トマト黄化葉巻ウイルス)						タバココナジラミ
	黄化病	ToCV (トマト退緑ウイルス)						コナジラミ類
きゅうり	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
		ZYMV (ズッキーニ黄斑モザイクウイルス)	○	△			○	
	緑斑モザイク病	KGMMV (キュウリ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	黄化病	BPYV (ビートシュードイエロースウイルス)						オンシツコナジラミ
すいか	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
	緑斑モザイク病	CGMMV (スイカ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	えそ斑点病	MNSV (メロンえそ斑点ウイルス)	○	○	○	○		オルピディウム菌
かぼちゃ	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
メロン	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
	緑斑モザイク病	CGMMV (スイカ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	えそ斑点病	MNSV (メロンえそ斑点ウイルス)	○	○	○	○		オルピディウム菌
いちご	ウイルス病	SMoV (イチゴ斑紋ウイルス)		?		?	○	種苗
		SMYEV (イチゴマイルドイエローエッジウイルス)		?		?	○	種苗
		SVBV (イチゴベインバンディングウイルス)		?		?	○	種苗
		SCV (イチゴクリンクルウイルス)		?		?	○	種苗
だいこん	モザイク病	TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		CaMV (カリフラワーモザイクウイルス)	○	?			○	
	ひだ葉モザイク病	RaMV (ダイコンモザイクウイルス)	○					キスジノミハムシ

野菜名	病名	病原ウイルス	伝染方法					
			汁液	接触	土壌	種子・種イモ・種球	アブラムシ類	他媒介虫等
ねぎ	萎縮病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
	えそ条斑病	IYSV (アイリス黄斑ウイルス)	○					ネギアザミウマ
たまねぎ	萎縮病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
	えそ条斑病	IYSV (アイリス黄斑ウイルス)	○					ネギアザミウマ
らっきょう	ウイルス病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
ほうれんそう	モザイク病	BtMV (ビートモザイクウイルス)	○				○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
	えそ萎縮病	BBWV (ソラマメウイルトウイルス)	○				○	
レタス	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		LMV (レタスモザイクウイルス)	○			○	○	
	ビッグベイン病	MiLBVV (レタスビッグベインミラフィオリウイルス)	○		○			オルピディウム菌
しゅんぎく	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
にんじん	モザイク病	CeMV (セルリーモザイクウイルス)	○				○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
ばれいしょ	モザイク病	PVX (ジャガイモXウイルス)	○	○		○		
		PVY (ジャガイモYウイルス)	○			○	○	
	黄斑モザイク病	PAMV (ジャガイモ黄斑モザイクウイルス)	○			○	○	
	葉巻病	PLRV (ジャガイモ葉巻ウイルス)				○	○	
さといも	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	?			○	
		DsMV (サトイモモザイクウイルス)	○			○	○	
そらまめ	モザイク病	BYMV (インゲンマメ黄斑モザイクウイルス)	○			○	○	
		BBWV (ソラマメウイルトウイルス)	○				○	
		PSbMV (エンドウ種子伝染モザイクウイルス)	○			○	○	
にんにく	モザイク病	LYSV (リーキ黄色条斑ウイルス)	○				○	
トウモロコシ	えそモザイク病	MDMV (トウモロコシ萎縮モザイクウイルス)	○			○	○	

△:伝染しやすい条件で起こる

## 〈参考3〉野　　そ

殺そ剤	適用作物	防除方法	注意事項
ヤンヂオン	野ソが加害する農作物等	200～300g/10a 手まきによる防除 本剤5gをそのまま、あるいは5gの小袋詰をソ穴(ネズミの生息する穴)に投入するか野ソの通路に配置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供や家畜が毒餌を誤って食べる恐れがある場所での使用は避ける。</li> <li>・作業後は顔、手足など石鹸でよく洗う。</li> </ul>

## 〈参考4〉器具、資材消毒

適用(場所)	対象	防除方法			注意事項
		薬剤名	使用濃度	使用方法	
農業資材	育苗箱(木箱、プラスチック箱) 育苗用ポット 支柱等資材	イチバン	500～1,000倍	瞬時浸漬又は ジョロ散布 水100当たり 10～20ml	・収穫用コンテナ・かごを除く
農業資材	催芽箱、育苗箱、育苗トレイ・ポット、植木鉢、果実類貯蔵箱、温室用資材、収穫用かご等農具の消毒	ケミクロンG	500倍	瞬間浸漬または ジョウロ散布 水100当たり 20g	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属類や木箱に使用した場合、必ずその後水洗する。</li> <li>・育苗トレイ、ポットを消毒する場合薬害(生育障害)を生じるおそれがあるので必ず水洗する。</li> </ul>
			1,000倍	10分間浸漬 水100当たり 10g	

資材は残渣や土を落としてから消毒すること。

## 〈参考5〉コオロギ、カタツムリ類、ナメクジ類、ケラ

病害虫名	防除時期	防除方法				注意事項
		薬剤名	使用方法	10a当たり 使用量	使用 回数	
コオロギ	キャベツ： 収穫14日前 まで ハクサイ： 収穫21日前 まで	デナポン5%ベイト	株元散布	3～4kg	3回 以内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用作物:キャベツ、ハクサイ</li> <li>・圃場を波板(50cmぐらいの高さ)などで囲むと侵入防止になる。</li> <li>・ダンゴムシ、ネキリムシ類、ハスモンヨトウにも登録あり。</li> </ul>
カタツムリ類 ナメクジ類	発生時	スラゴ	ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置	1～5g/m <sup>2</sup>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用作物:ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等</li> <li>・適用場所:温室、ハウス、圃場、花壇</li> </ul>
ケラ	作物により異なる	ダイアジノン粒剤3	土壌混和	作物により異なる	作物により異なる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用作物ごとに時期や使用回数が異なるので、土壌病害虫の項参照。</li> <li>・販売会社により使用時期等の登録内容が異なることがあるため、使用においてはラベルを必ず確認すること。</li> </ul>

### 〈参考6〉 主要野菜のチョウ目害虫の防除薬剤

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
1A	カーバメート	ランネート45DF	アオムシ	○		○	○	○		
			ハスモンヨトウ	○						
			ヨトウムシ	○	○	○				
			コナガ	○		○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○						
			ハイマダラノメイガ				○			
1B	有機リン	エルサン乳剤	アオムシ	○	○	○	○	○		
			ハスモンヨトウ	○	○	○	○	○		○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○		
			コナガ	○	○	○	○	○		
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○	○		
		オルトラン粒剤 ジェイエース粒剤	アオムシ	○	○(オルトラン)	○	○			
			ヨトウムシ	○	○	○				
			コナガ	○		○	○			
		オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤	アオムシ	○		○				
			ハスモンヨトウ	○		○				
			ヨトウムシ	○		○				
			コナガ	○		○				
		タマナギンウワバ	○							
			アオムシ	○						
			ハスモンヨトウ	○						
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○						
		シロイチモジヨトウ	○							○
			アオムシ	○	○	○	○	○		
ハスモンヨトウ	○									
ヨトウムシ	○									
コナガ	○									
3A	ピレスロイド	トレボン乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ							○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○		○	○			
		シロイチモジヨトウ							○	
		アグロスリン乳剤	アオムシ							
			ハスモンヨトウ							
ヨトウムシ										
タマナギンウワバ	○									
	アオムシ	○	○	○	○					
	ハスモンヨトウ	○		○	○					
1B 3A	有機リン・ ピレスロイド	ハクサップ水和剤	ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○		○	○			
			オオタバコガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○		○				
			○							
4A	ネオニコチノイド	モスピラン粒剤	アオムシ	○	○	○				
			ハスモンヨトウ	○						
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○	○	○				

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
5	スピノシン	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ヨトウムシ	○		○				
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○					○	
			ハイマダラノメイガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○		○				
			ディアナSC	アオムシ	○	○	○	○	○	
		ハスモンヨトウ	○	○	○		○		○	
		ヨトウムシ	○	○	○	○				
		コナガ	○	○	○	○	○			
		シロイチモジヨトウ		○				○		
		ハイマダラノメイガ	○	○	○	○				
		オオタバコガ	○	○	○					
		ウワバ類	○	○	○	○				
6	アベルメクチン	アニキ乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			オオタバコガ	○		○				
			ウワバ類	○						
6 15	アベルメクチン ベンゾイル尿素	アフームエクセラ顆粒水和剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○	○		○			
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			オオタバコガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○						
11A	BT	トアロー水和剤CT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
		トアローフロアブルCT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
		エスマルクDF 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			ハイマダラノメイガ	○			○	○		
		エコマスターBT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ハスモンヨトウ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			シロイチモジヨトウ	○	○	○	○	○	○	○
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○			
		ゼンターリ顆粒水和剤 野菜類 (きゃべつ、はくさいを除く)	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ハスモンヨトウ	○	○			○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			シロイチモジヨトウ	○	○			○	○	○
オオタバコガ	○		○			○	○	○		

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
13	ピロール	コテツフロアブル	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					○
			ヨトウムシ	○	○	○		○		
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○						
			オオタバコガ	○						
タマナギンウワバ	○									
14	ネライストキシン	パダンSG水溶剤	アオムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○						
15	ベンゾイル尿素	マツチ乳剤	アオムシ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○		○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○						
		アタブロン乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○		○	○			
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○	○	○				
		ハイマダラノメイガ	○							
		ノーモルト乳剤	アオムシ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○						
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○		○				
		カスケード乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					
ヨトウムシ	○		○	○						
コナガ	○		○	○	○					
シロイチモジヨトウ	○						○			
ハイマダラノメイガ	○				○					
オオタバコガ	○									
タマナギンウワバ	○									
18	ジアシル-ヒドラジン	マトリックフロアブル	ハスモンヨトウ	○						○
			ヨトウムシ		○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○			○			
21A	METI剤	ハチハチ乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○	○		
22A	オキサジアジン	トルネードエースDF	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○	○	○			○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
ウワバ類	○		○							

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも	
22B	セミカルバゾン	アクセルフロアブル	アオムシ	○		○		○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○	
			ヨトウムシ	○	○	○	○				
			コナガ	○	○	○		○			
			シロイチモジヨトウ						○		
			ハイマダラノメイガ	○		○	○				
			オオタバコガ	○							
			ウワバ類	○							
28	ジアミド	プレバソンフロアブル5	アオムシ	○	○	○	○				
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○	
			ヨトウムシ	○		○	○				
			コナガ	○	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○		
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○				
			オオタバコガ	○	○	○					
			ウワバ類	○							
		フェニックス顆粒水和剤	アオムシ	○		○					
			ハスモンヨトウ	○	○	○					○
			ヨトウムシ	○	○	○					
			コナガ	○	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○		
			ハイマダラノメイガ	○	○		○	○			
			オオタバコガ	○		○					
			ウワバ類	○							
		ベリマークSC	アオムシ	○	○	○					
			ハスモンヨトウ	○	○	○					
			ヨトウムシ	○							
			コナガ	○	○	○					
			シロイチモジヨトウ	○	○	○			○		
			ハイマダラノメイガ	○	○	○					
			ウワバ類	○							
			ベネビアOD	アオムシ	○	○	○	○			
		ハスモンヨトウ		○	○	○					
		ヨトウムシ		○		○	○				
		コナガ		○	○	○	○				
		シロイチモジヨトウ		○	○	○			○		
ハイマダラノメイガ	○			○	○						
オオタバコガ	○										
ウワバ類	○			○							
28 4A	ジアミド・ ネオニコチノイド	ジュリボフロアブル	アオムシ	○	○						
			ハスモンヨトウ	○	○	○					
			ヨトウムシ	○		○					
			コナガ	○	○	○					
			ハイマダラノメイガ	○	○	○					
			オオタバコガ	○							

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
30	イソキサゾリン	グレースシア乳剤	ア オ ム シ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○		○				○
			ヨトウムシ	○		○				
			コ ナ ガ	○		○	○	○		
			オオタバコガ	○		○				
			シロイチモジヨトウ	○		○			○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			ウワバ類	○		○				
UN	ピリダリル	プレオフロアブル	ア オ ム シ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○			○		○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コ ナ ガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○						
			オオタバコガ	○		○				
			ウワバ類	○						

## 〈参考7〉 チョウ目害虫殺虫剤の特性と使用上のポイント

IRAC コード	系統名	農薬の名称	特徴	浸透 移行性 <sup>1)</sup>	効果の 発現 <sup>2)</sup>	残効性 <sup>3)</sup>	食毒 <sup>4)</sup>	接触毒 <sup>4)</sup>	忌避 <sup>4)</sup>	使用上のポイント
1A	カーバメート系	ランネート45DF	・極めて速効的な効果 ・幅広い適用害虫 ・幅広い生育ステージへの効果 (コナガで抵抗性の発達が見られる)	○	○	×	○	○		・施設(ハウス)内での散布は絶対しない
1B	有機リン系	エルサン乳剤 オルトラン水和剤 トクチオン乳剤 マラソン乳剤	・非選択的の吸収毒である ・抵抗性が発達しやすい (コナガで抵抗性の発達が見られる)	○ ○ ○	○ △ △ ○	△ ○ ○ ×	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		・広範囲の害虫に有効 ・食害性害虫や吸汁性害虫に効果 ・チョウ目害虫、ハダニ類等に効果 ・吸汁性害虫に効果
3A	合成ピレスロイド系	トレボン乳剤 アグロスリン乳剤	・産卵抑制、忌避効果がある ・抵抗性が発達しやすい (一部地域のコナガで抵抗性発達が見られる)		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	・広範囲の害虫に効果
1B 3A	有機リン系 +合成ピレスロイド系	ハクサップ水和剤	・産卵抑制、摂食阻害あり	△	○	○	○	○	○	・大型鱗翅目害虫に効果
4A	ネオニコチノイド系	モスピラン粒剤	・定植時の処理により害虫の発生を 長期間抑制 ・粒剤は天敵にやさしい	○	○	◎	○	○		・コナガ、アオムシ、アブラムシ類に有効
5	スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤 ディアナSC	・チョウ目、アザミウマ目害虫に卓効		○ ○	○	○ ○	○ ○		・天然物由来殺虫剤 ・広い殺虫スペクトラム
6	ミルベメクチン系	アニキ乳剤	・チョウ目、ハモグリバエ類、コナジラミ類、ア ザミウマ類に殺虫活性	△	○		○	○		・既存薬剤に抵抗性を示す害虫にも効果
6 15	アベルメクチン系 +IGR脱皮阻害	アフームエクセラ顆粒水溶剤	・幅広い生育ステージで殺虫効果を発揮 ・殺卵効果を有す	△	○	○	○	○		・浸透移行性はないが、優れた進達性を有する
11A	BT(kurstaki)死菌	トアロー水和剤CT トアローフロアブルCT	・チョウ目害虫の幼虫に対し、選択的に作用し 安定した効果を発揮	×	△	△	○			・若齢幼虫期に時機を失せず散布する
11A	BT(aizawai)生菌	エスマルクDF エコマスターBT ゼンターリ顆粒水和剤	・食毒効果のみで、接触毒効果はない ・幼虫の食害がとまる	×	△	△	○			・若齢幼虫期に時機を失せず散布する
13	ピロール系	コテツフロアブル	・殺虫スペクトルが広い ・害虫のいずれの加害ステージにも効果を示す	×	○		○			・結球前に使用し、かけむらのないよう十分 量を散布する
14	ネライストキシン系	パダンSG水溶剤	・特に食害性害虫に有効	○	△	○	○	○		・コナガに対し、強い殺卵作用、殺成虫作 用、幼虫に対する長い残効性がある
15	ベンゾイル尿素系 IGR(キチン合成阻害)	マッチ乳剤 アタブロン乳剤 ノーモルト乳剤 カスケード乳剤	・キチン生合成阻害 ・脱皮阻害	×	×	○	○			・幼虫主体の発生初期に散布する ・幼虫期のなるべく早くに散布する ・殺卵作用がある ・産下卵ふ化抑制
18	ジアシルーヒドラジン系 IGR(脱皮促進)	マトリックフロアブル	・チョウ目害虫に高い効果 ・脱皮変態の促進 ・摂食阻害作用		△		○			・チョウ目以外に脱皮促進効果はない
21A	METI剤	ハチハチ乳剤	・殺虫スペクトルが広い ・難防除害虫に高い効果を示す ・殺菌作用を有する	×	○			○		・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する
22A	オキサジアジン系	トルネードエースDF	・大型チョウ目害虫にも、高い効果 ・中齢・老齢幼虫にも有効 ・食害をすぐに止める		○	○	○	○		・ねぎのシロイチモジヨトウを防除する場 合は、食入前の若令幼虫期に散布する
22B	セミカルバゾン系	アクセルフロアブル	・接触阻害効果 ・齢期の進んだチョウ目害虫の幼虫にも高い 効果	×	○		○			・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する。
28	ジアミド系	プレバソフロアブル5	・幼虫に対する効果が高い ・速やかに摂食行動を停止させる	○	○	○	○			・灌注と散布のいずれでも使用可能
		ベリマークSC ベネビアOD	・幅広い殺虫スペクトラム ・速やかな摂食行動阻害	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○			・灌注処理 ・OD製剤は展着剤の機能も同時に兼ね備え る
		フェニックス顆粒水和剤	・チョウ目害虫に効果が高い ・害虫の筋肉を収縮させる	×	○	○	○			・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する
28 4A	ジアミド系 +ネオニコチノイド系	ジュリボフロアブル	・チョウ目から吸汁性害虫まで幅広い殺虫効 果を示す	○	○	○	○			
30	イソキサゾリン系	グレーシア乳剤	・広範囲の害虫に効果 ・耐雨性が高い	△	○	○	○	○		・浸透移行性はないが、浸達性は高い
UN	ピリダリル系	プレオフロアブル	・既存の殺虫剤とは異なる作用性を有する ・散布後の降雨による効果の低下が少ない	△	○	○	○	○		

注1)浸透移行性:○強い △弱い ×なし 2)効果の発現:○速い △やや遅い ×遅い 3)残効性:○長い △やや長い ×短い 4)食毒、接触毒、忌避:○あり HP等による

## 〈参考8〉フェロモン剤による防除法

### 1 コナガコン-プラス(コナガ・オオタバコガ・ヨトウガ交信攪乱剤)

作物名	適用場所	使用目的	適用病害虫	使用量	使用時期	使用方法
アロニア	アロニア栽培地帯	交尾阻害	リンゴヒメシ ンクイ	100本/10a (22g/100本製剤)	対象作物 の栽培全 期間	ディスペンサーを対象作物 の枝に巻き付け、または挟み 込み設置する
コナガ、 オオタバ コガ、ヨ トウガが 加害する 農作物等	コナガ、 オオタバ コガ、ヨ トウガの 加害作物 栽培地帯		コナガ オオタバコガ ヨトウガ	100～120本/10a (22g/100本製剤)		作物の生育に支障のない高 さに支持棒等を立て、支持 棒 にディスペンサーを巻き付 け固定し、圃場に配置する
コナガ、 オオタバ コガが加 害する農 作物等	コナガ、 オオタバ コガの加 害作物栽 培地帯		コナガ オオタバコガ	20～40m/10a (55g/50m製剤)		支柱を立てロープ状の製剤 を対象作物の上部に張り渡 す

### 2 コンフューザーV(交信攪乱剤)

作物名	使用目的	適用害虫名	使用量	使用時期	使用方法
野菜類 いも類 豆類(種 実) 花卉類・ 観葉植物	交尾阻害	コナガ オオタバコガ ハスモンヨトウ タマナギンウワバ イラクサギンウワバ ヨトウガ	100～200本/10a (41g/100本製剤)	対象作物 の栽培全 期間	作物の生育に支障のない高 さに支持棒等を立て支持棒 にディスペンサーを巻き付 け固定し圃場に配置する
		シロイチモジヨトウ	100本/10a (41g/100本製剤)		

※キャベツでは100本/10a+BT剤(30a圃場)でも効果が期待できる。(H19普及に移す技術)

### 3 フェロディンSL(ハスモンヨトウ大量誘殺剤)

作物名	適用場所	使用目的	適用病害虫	使用量	使用時期	使用方法
あぶらな 科野菜 いちご いも類 たばこ なす科野菜 にんじん ねぎ類 まめ科牧草 豆類 レタス れんこん 等	ハスモン ヨトウ加 害作物栽 培地帯	誘引	ハスモンヨト ウ 雄成虫	2～4個/ha	成虫発生 初期から 発生終期 まで	本剤をトラップ1台当たり1 個を取付けて配置する。取付 けた薬剤は1.5～2ヶ月間 隔で更新する

### 3 その他の防除用フェロモン剤

- ヨトウコン- S : 交尾阻害 : シロイチモジヨトウ 100～500本(20cmチューブ)/10a(露地)  
 ヨトウコン- H : 交尾阻害 : ハスモンヨトウ 20～200m/10a(20cmチューブの場合100～1000本)(露地)

## 〈参考9-1〉微生物由来の薬剤(殺菌剤)

作物名	適用病害虫	農薬種類名	商品名
野菜類	うどんこ病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
		ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
	うどんこ病 灰色かび病	バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	ボトキラー水和剤 バイオワーク水和剤 バチスター水和剤 アグロケア水和剤(ニラ灰色かび病を除く) セレナーデ水和剤
		銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	灰色かび病	バチルス ズブチリス水和剤	エコショット
	菌核病	コニオチリウム ミニタンス水和剤	ミニタンWG
軟腐病	ラクトバチルス プランタラム水和剤	ラクトガード水和剤	
野菜類 (かぼちゃ、ズッキーニを除く)	軟腐病	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
野菜類 (かぼちゃ、ズッキーニ、しょうがを除く)	軟腐病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
野菜類(施設栽培)	うどんこ病	ペキロマイセス テヌイペス乳剤	ゴッツA
いも類	うどんこ病	バチルス ズブチリス水和剤	セレナーデ水和剤
	灰色かび病		
	軟腐病	ラクトバチルス プランタラム水和剤	ラクトガード水和剤
ばれいしょ	軟腐病	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
だいこん	黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
にんじん	黒葉枯病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
にんにく	黒腐菌核病	コニオチリウム ミニタンス水和剤	ミニタンWG
ねぎ			
きゅうり	褐斑病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	斑点細菌病 べと病		
かぼちゃ	うどんこ病	バチルス ズブチリス水和剤	セレナーデ水和剤
	軟腐細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
		非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
トマト ミニトマト	疫病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	すすかび病 葉かび病		
	茎えそ細菌病 かいよう病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	灰色かび病 葉かび病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
	葉かび病 すすかび病	バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
	葉かび病	バチルス ズブチリス水和剤	バイオワーク水和剤 エコショット アグロケア水和剤 バチスター水和剤 セレナーデ水和剤
ミニトマト	斑点病	バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
なす	すすかび病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
		バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
ピーマン	黒枯病	バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
ブロッコリー	花腐腐敗病 黒腐病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	花腐腐敗病 黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	根こぶ病	バリオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
キャベツ	黒腐病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	黒腐病 黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	根こぶ病	バイオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
はくさい	黒腐病 黒斑細菌病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	根こぶ病	バイオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
レタス 非結球レタス	斑点細菌病 腐敗病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	腐敗病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
ほうれんそう	白斑病	バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
いちご	炭疽病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール

〈参考9-2〉微生物由来の薬剤【BT:バチルス・チューリンゲンシス】(殺虫剤)

薬剤名	死菌	生菌	使用倍率	10a当り 使用量	野菜類										その他の品目等	使用 時期
					コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ リ ノ メ イ ガ	タ マ ナ ギ ン ウ ワ バ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ			
トアロー水和剤 CT	○		1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○									果樹類:ハマキムシ類(500～1,000倍) ストック:コナガ(1,000倍)	発生初期、 ただし収穫前日まで
			500～1,000倍				○									
トアローフロアブルCT	○		1,000～2,000倍		○	○										
			500～1,000倍							○						
ゼンターリ顆粒水和剤		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○	○							はくさい:アオムシ、コナガ、ヨトウムシ(2,000倍) ウリ科野菜:ウリノメイガ(1,000倍) いも類:ハスモンヨトウ(1,000倍) とうもろこし:オオタバコガ(1,000倍)		
			1,000倍					○	○	○						
エスマルクDF		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○								キャベツ、だいこん、かぶ:ハイマダラノメイガ(1,000倍)		
			1,000倍				○		○							
バシレックス水和剤		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○								かき:イラガ類、カキノヘタムシガ(1,000倍)		
			1,000倍								○					
			500倍				○	○								
デルフィン顆粒水和剤		○	1,000倍	100～ 300g	○	○		○	○	○	○	○	○	やまのいも:ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ(1,000倍) いも類(ヤマノイモを除く):ハスモンヨトウ、オオタバコガ(1,000倍) とうもろこし:オオタバコガ(1,000倍)		
チューンアップ顆粒水和剤		○	2,000～3,000倍	100～ 300g	○	○				○			○	水稻:ニカメイチュウ(1,000～2,000倍)、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イネツトムシ(2,000～4,000倍) ストック:コナガ(2,000倍)		
			3,000倍						○							
			2,000倍				○									
フローバックDF		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○			○				にんにく:ネギコガ(1,000～2,000倍) キャベツ、だいこん:ハイマダラノメイガ(1,000倍)			
			1,000倍				○	○		○						
クオークフロアブル		○	400～800倍	150～ 300g	○	○	○						きゅうり:ウリノメイガ(400倍)			
			400倍					○		○						
サブリナフロアブル		○	1,000～1,500倍	100～ 300g	○								はくさい:コナガ(1,000～1,500倍)、アオムシ、ヨトウムシ(1,000倍)			
			1,000倍				○	○								
			500～750倍					○								
			500倍						○							

死菌:バチルス チューリンゲンシス菌の産生する結晶毒素(7.0%)

生菌:バチルス チューリンゲンシス菌の生芽胞及び産生結晶毒素(10.0%)

## 〈参考 9 - 3〉 微生物由来の薬剤(殺虫剤)

作物名	適用病害虫	農薬種類名	商品名
野菜類	アザミウマ類	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
	アブラムシ類		
	コナガ		
	コナジラミ類		
	ハダニ類		
	ネコブセンチュウ	パスツールリア ペネトランス水和剤	パストリア水和剤
	ハスモンヨトウ	スタイナーネマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
	ワタアブラムシ	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤
	コナジラミ類	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤
		ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
いも類	ネコブセンチュウ	パスツールリア ペネトランス水和剤	パストリア水和剤
かんしょ(茎葉)	アリモドキゾウムシ	スタイナーネマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
	イモゾウムシ		
ねぎ	クロバネキノコバエ類	スタイナーナマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
トマト	コナジラミ類	ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
ミニトマト		ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
キャベツ	アオムシ	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
レタス	オオタバコガ	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
いちご(施設栽培)	ハダニ類	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤

## 〈参考10〉天敵昆虫剤

作物名	適用病害虫	商品名
野菜類	ハダニ類	スパイカルEX
		スパイカルプラス
野菜類(施設栽培)	チャノホコリダニ	スワルスキープラス
		リモニカ
	ハダニ類	ミッチトップ
		チリトップ
		スパイデックスバイタル
		チリガブリ
		チリカ・ワーカー
		ミヤコトップ
		ミヤコスター
		システムミヤコくん
		アザミウマ類
	メリトップ	
	ククメリスEX	
	スワルスキープラス	
	オリスターA	
	タイリク	
	トスパック	
	リクトップ	
	リモニカ	
	アブラムシ類	アフィパール
		コレトップ
		チャバラ
		テントップ
		カメノコS
	コナジラミ類	エンストリップ
		エルカード
		スワルスキープラス
リモニカ		
オンシツコナジラミ	ツヤトップ25	
ハモグリバエ類	ミドリヒメ	
野菜類(施設栽培、 ただし、トマト、ミニトマトを除く)	チャノホコリダニ	システムスワルくん
		システムスワルくんロング
	アザミウマ類 コナジラミ類	システムスワルくん
		スワマイト システムスワルくんロング
野菜類(露地栽培)	ハダニ類	システムミヤコくん
	アザミウマ類	スワルスキープラス
いも類(施設栽培)	チャノホコリダニ アザミウマ類 コナジラミ類	スワルスキー
いも類(露地栽培)	アザミウマ類	スワルスキー
きゅうり(施設栽培)	アザミウマ類	バコトップ
トマト・ミニトマト(施設栽培)	コナジラミ類	バコトップ
なす(施設栽培)	アブラムシ類	ギフパール
ピーマン(施設栽培)	アブラムシ類	ギフパール
とうがらし類(施設栽培)		
ほうれんそう(施設栽培)	ケナガコダナニ	ククメリスEX
いちご(施設栽培・露地栽培)	ハダニ類	ミヤコスター
		システムミヤコくん

## 〈参考11〉 展着剤

分類	薬剤名	作物名	散布液100 当たり使用量	使用方法	適用農薬名	湿 展 性	浸 透 性	分 散 性	可 溶 化 力	固 着 性	懸 垂 性
機能性展着剤 (アジュバント)	アプローチBI	野菜類	10mℓ	添加	殺虫剤、殺菌剤	○	◎	○	◎	○	○
		野菜類、いも類	5mℓ		殺虫剤、殺菌剤	◎	◎	○	◎	○	○
	スカッシュ	野菜類、いも類	5～10mℓ		殺虫剤、殺菌剤	◎	◎	○	◎	○	○
	ドライバー	野菜類	2～10mℓ		殺虫剤、殺菌剤	◎	○	△	○		△
	ミックスパワー	キャベツ、ハクサイ、 キュウリ等	3.3mℓ		有機リン剤、カーバメート 剤等の殺虫剤。無機銅剤、 有機銅剤等の殺菌剤	◎	◎	○	◎	○	○
一般展着剤 (スプレッダー)	グラミンS	キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mℓ		有機リン剤、カーバメート剤などの 殺虫剤。殺菌剤。銅剤、硫 黄剤、抗生物質剤などの殺 菌剤	◎	○	△	○	○	△
		はくさい、きゅうり、ば れいしょ等の薬液のつき やすい作物	0.5～1mℓ			◎	○	◎	○	○	◎
	ダイコート	薬液のつきにくい農作物 等	5mℓ		イミダジン酢酸塩剤、有機銅 剤、イプロロニル剤等の殺菌剤	◎	◎	△	○	○	△
	ベタリン-A	キャベツ、ねぎ等で展着 しにくい作物	2～4mℓ		有機リン剤、カーバメート剤等の殺 虫剤。ホルダー液、銅剤、硫黄 剤、抗生物質剤等の殺菌剤	◎	○	○	○	○	○
		野菜等で薬液のつきや すい作物	1～2mℓ								
	マイリノー	キャベツ、ねぎ等の薬液 のつきにくい作物	1～2mℓ	抗生物質剤、銅剤などの殺 菌剤。有機リン剤、カーバメート 剤などの殺虫剤	○	△	△	○	○	(△)	
		野菜等で薬液のつきや すい作物	0.5～1mℓ								
	アグラー	野菜類、その他の一般 畑作物	5000～10000 倍	硫黄剤、銅剤などの殺菌 剤。塩素剤、リン剤などの 殺虫剤。植物成長調整剤、 除草剤	◎	○	○	○	○	○	
	まくぴか	野菜類、いも類	1～3.3mℓ	殺菌剤・殺虫剤	◎	○	△	○			
ブレイクスルー	野菜類、いも類	1～2mℓ	殺菌剤・殺虫剤	◎	◎	○	◎	○	○		

※ 作物によっては薬害が出やすいことがあるので、必ず使用する展着剤に関する情報を確認し、初めて使用する際は小面積で使用する。

- クミアイ農薬総覧より引用。
- 表に示した湿展性～懸垂性等の6項目の性質は、界面活性剤単成分の一般的性質で、使用場面では相手の農薬との相性があるので、必ずしもこの表のとおりになるとは限らない。また、浸透性はろ紙法による結果であり、必ずしも動植物体への浸透性を示すもの
- 濡れやすい作物では、展着剤を加えすぎると薬液が流亡し、かえって付着量が少なくなることがあるので注意する。
- 表に示した性質以外に、泡立ちがある。
- 展着剤の特性
  - (1) 湿展性:植物や病害虫の表面にぬれて広がり、薬液を均一に付着させる性質
  - (2) 浸透性:薬剤が植物組織体へ浸透し、効果を高める性質
  - (3) 分散性:懸濁や乳化により、水に不溶性または難溶性の薬剤を均一に拡散させ、薬剤粒子間の凝集を防ぐ性質
  - (4) 可溶化力:ミセルを形成することより、不溶性または難溶性の薬剤を水に均一に溶解させる性質
  - (5) 固着性:薬剤の付着量を増すとともに、風雨などによる流亡を防ぐ性質
  - (6) 懸垂性:水和剤粒子が水に均一に分散した状態を維持させて、沈降を遅らせる性質

濡れの程度	該当作物名
良い	キュウリ、インゲンマメ、トウモロコシ、カンショなど
中程度	ナス、トマト、メロン、イチゴなど
悪い	キャベツ、ネギ類、サトイモなど

- 農薬を溶かす手順
  - ・混用により卓越した薬効の増強が期待できるが、薬害の発生しやすい条件や薬害の出やすい農薬との混用時には注意が必要である。
  - ・一般的に、界面活性剤を多く含む製剤を先に入れた方が、後から加える薬剤の攪散を助ける。
  - ・水→展着剤→乳剤→フロアブル剤→水和剤の順番に加える。
  - ・乳剤は、加えた後均一に白くなるまで攪拌する。
  - ・フロアブル剤は、前日に容器を反転させておく。調整時は容器をよく振って、ビンの中の薬剤を均一にしてから加える。
  - ・水和剤は、調製した薬液を静置すると少しずつ沈殿するので、できるだけ早く散布する(攪拌しながら散布することが望ましい)。

## 〈参考12〉発生予察用資材

過剰な農薬使用を防ぐとともに、環境に与える負荷を軽減したIPM(総合的病害虫・雑草管理)を推進するためには、病害虫の発生予察に基づき、適切な防除を行う必要がある。そのため、各圃場に発生予察用資材を設置し、害虫の発生状況を調査すると防除の要否が判断できる。

### 1 発生予察用フェロモン剤

発生予察用フェロモン剤によるモニタリング調査可能な害虫一覧

対象作物名	対象害虫名	利用可能トラップ			誘引シート	有効期間	調査
		粘着式	乾式	ファネル			
野菜類	ハスモンヨトウ用	○	○	○		1ヶ月	毎日
	シロイチモジヨトウ用	○		○			
	ヨトウガ用	○					
	オオタバコガ用	○		○			
	タバコガ用	○					
	カブラヤガ用	○					
	タマナヤガ用	○					
	タマナギンウワバ用	○					
	コナガ用	○		○			
	アワノメイガ用	○					
	ハウレンソウケナガコナダニ用				○		

#### (使用方法)

- 粘着式…フェロモン剤を粘着トラップの中央に接着し、圃場内に地面から離れた状態で設置する。
- 乾式、ファネル…フェロモン剤を内部に入れ、圃場内に地面から離れた状態で設置する。
- 誘引シート…シートを圃場の地表面に設置する。

#### (注意事項)

- 有効期間内にフェロモン剤を交換し、使用済みのフェロモン剤は回収後破棄する。
- 発生予察用フェロモン剤は、防除目的に使用できない。
- ハウレンソウケナガコナダニ「コナダニ見張番」は長期間放置すると、発生源となる恐れがあるので、遅くとも1週間以内に回収する。
- 対象作物・害虫によって、トラップの設置高が異なるので注意する。

#### 【参考】

一般社団法人 日本植物防疫協会 発生予察用資材フェロモンとその利用

<https://jppa.or.jp/wpsite/wp-content/uploads/pheromones.pdf>

### 2 カラー粘着板

粘着板の色彩と誘引される害虫

粘着板の色彩	対象害虫名	調査
黄色	アブラムシ類、ハモグリバエ類、コナジラミ類、アザミウマ類	7日ごと
青色	アザミウマ類(みなみ)	

- 野菜類を加害する上記の微小昆虫を誘引・捕殺する粘着板を利用することで、圃場内の発生状況を知ることができる。
- 粘着板は圃場内に数ヵ所設置し、7日ごとに調査を行い、圃場への侵入時期・発生量の目安とする。
- 一般に微小昆虫は成虫の発生から1週間前後で次世代幼虫が増加してくるので、害虫の生育ステージに効果的な薬剤を選定する。
- 要防除水準は、作目、害虫の種類により異なるが、ウイルス病の媒介が懸念される場合には、粘着板への誘引、捕殺を確認次第、薬剤防除を実施する。

## 2 野菜・いも類除草剤

### (1) 使用上の注意事項

- ① 使用薬量は散布実面積当たりの量であり、畝内散布面積を前もって算出し、その面積当たりの薬量を厳守する。
- ② 土壌処理剤は、雑草の発芽期に土壌表面を細かく砕いて散布する。
- ③ 残効害防止のために、除草剤は均一に散布すること。
- ④ 土壌処理は適当な湿度が必要で、乾燥状態では効果が少なく湿潤すぎると薬害の恐れがある。
- ⑤ 水量は、土の湿り具合で増減する。噴霧器は、低圧～中圧で下向き噴口のものを使用する。また、風が強いときなどは、散布を避けること。
- ⑥ マルチ、トンネル、ハウスなどは薬害が出やすいので、極端な高温、乾燥状態では使用せず、薬量を少なめにする。

### (2) 農薬使用基準（各農薬の使用時期・使用回数は適用作物毎に異なるので確認の上使用する）

### (3) 使用方法

除草剤名	なす	ピーマン	トマト	ミニトマト	きゅうり	すいか	メロン	かぼち	いちご	キヤベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	葉菜類	非結球あぶらな	ほうれんそう	ねぎ	たまねぎ	らっきょう	にんにく	レタス	にんじん	未成熟そらまめ	スイートコーン	ばれいし	かんのしい	やまのしい	さといも	
トレファノサイド乳剤	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○				○	○	○	
トレファノサイド粒剤2.5	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○						○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	
ナブ乳剤			○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	↑(豆類(未成熟))	○	○	○	○	
バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ゲザプリムフロアブル																								○	↑(とうもろこし)					
ラッソー乳剤									○	○	○	○	○	○			○								○	○	○			
クレマート乳剤	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○			○		○	○	
クレマートU粒剤			○		○	○	○			○								○	○		○	○				○	○	○	○	
ゴーゴーサン乳剤										○	○							○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	
ゴーゴーサン細粒剤F										○	○							○	○		○	○			○	○		○	○	
フィールドスターP乳剤										○	○														○	○				
クロロIPC									○	○								○	○		○	○	○							
ロロックス																		○		○	○				○	○	○	○	○	
ラウンドアップマックスロード	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※↑は野菜類で登録、または（ ）内に記載の品目で登録